

ジャパンラグビー 2025 年度事業報告

公益財団法人 日本ラグビーフットボール協会

ジャパンラグビー 2025 年度事業報告 目次

ジャパンラグビー 2025 年度事業報告 概要	3	ハイパフォーマンス委員会	36
中期戦略計画の進捗と重要目標達成指標（KGI）について	4	ユース委員会	37
事業遂行体制と重要業績評価指標（KPI）について	5	アスリート委員会	37
		安全対策委員会	38
2025 年度事業報告	6	メディカル委員会	39
Pillar1 強化（CRO）	7	アンチ・ドーピング委員会	40
Pillar II エンゲージメント（CMO）	11	競技運営委員会	40
PillarIII 普及育成（CDO）	13	普及育成委員会	43
PillarIV 女子ラグビー（DOWR）	17	女子委員会	46
PillarV 組織基盤（COS）	19	財務委員会	46
PillarVI 財務基盤（CFO）	24		
CEO 直轄組織	26	支部協会	47
		関東ラグビーフットボール協会	48
日本代表活動	30	関西ラグビーフットボール協会	50
男子 15 人制	31	九州ラグビーフットボール協会	52
男子 7 人制	32		
女子 15 人制	33		
女子 7 人制	34		
専門委員会	35	附属明細書	
ガバナンス委員会	36	2025 度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、これを作成しない	
コンプライアンス委員会	36		
監査委員会	36		

ジャパンラグビー 2025 年度事業報告 概要

平素より、ジャパンラグビーへの多大なるご支援を頂き、心より御礼申し上げます。2025 年度における日本協会事業についてご報告申し上げます。

昨年 3 月に公表致しました「中期戦略計画 2025-2028」では、ラグビーワールドカップの近い将来での日本招致を目指して、「海外戦略」「地域連携」「ラグビーファミリーの拡充」に注力することとし、また、これらに関わる事業を推進するため、「競技力の強化」「収益力の強化」「関係人口の拡大」「基盤強化」という 4 つの成長サイクルを設定しました。さらにこれらを、強化、エンゲージメント、普及育成、女子ラグビー、組織基盤、財務基盤という 6 つの Pillar に分解し、全体を価値基盤がカバーする構造とし、それぞれについて、遂行責任者と推進組織、達成目標を定めた上で、各種事業に取り組んでまいりました。

特に、今回の中期戦略計画では、2028 年度末までの達成を目指す、弊協会全体の目標として「**重要目標達成指標 (KGI)**」を定めると共に、Pillar ごとの活動成果の評価軸とするため「**重要業績評価指標 (KPI)**」を設定しております。今回は、2025 年度の実業報告と合わせて、中期戦略計画 2025-2028 の 1 年終了時点における、それらの進捗についてもご報告申し上げます。

2025 年度末時点の「重要目標達成指標 (KGI)」については、成長サイクルとしての「収益力の強化」と「基盤強化」のうちの特に財務基盤において、大きな課題を残す結果となりました。これらは「競技力の強化」や「関係人口の拡大」に関わる事業にも大きく影響を及ぼすことから、2026 年度における、最重要課題としてその回復・改善に努めているところです。

次に、Pillar ごとの進捗についてご報告致します。

「**強化**」 特に男子 15 人制、女子 7 人制では着実な前進があったと考えております。レフリーやコーチの育成も計画に沿って進めております。

「**エンゲージメント**」 収入の柱となる入場料、放映権料、協賛金いずれも、営業面での強化を図る必要性を認識しており、既に対策に着手しております。

「**普及育成**」 プレーヤー、登録者、体験者を増やすため、登録制度の見直しを含む、普及育成に関わる推進体制の強化に取り組みしました。

「**女子ラグビー**」 コミュニティの構築や認知度の向上に向けて、リーグワンや三支部協会・都道府県協会とも連携して、事業を推進しました。

「**組織基盤**」 初めてエンゲージメント指標の調査を実施、協会組織の強みや弱みを把握しました。基盤強化のため、適切な対策を講じて参ります。

「**財務基盤**」 予算管理とその監視機能も十分には機能しておりませんでした。2026 年度に入り、既に具体的な対策に着手しております。

また、JAPAN BASE では運営安定化に向け、事業計画の見直しを行った他、協会全体としてのガバナンス強化や情報発信に関わる取り組みも進めてまいりました。その他、重要業績評価指標 (KPI) の進捗を含む Pillar ごとの事業報告、日本代表活動、各委員会・三支部協会における活動報告については次頁以降にまとめております。

弊協会は今年 11 月に創立 100 周年を迎えます。先人たちへ感謝申し上げますと共に、ジャパンラグビーに関わる全ての方々と心を一つにして、次の 100 年に向けた一歩を踏み出す所存でございます。引き続き、ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

中期戦略計画の進捗と重要目標達成指標（KGI）について

中期戦略計画 2025-2028 では、「競技力の強化」「収益力の強化」「関係人口の拡大」「基盤強化」という 4 つの成長サイクルを設定し、2028 年度末までに目指す目標として、重要目標達成指標（KGI）を定めました。中期戦略計画 1 年目、2025 年度末時点における重要目標達成指標（KGI）の進捗についてご報告致します。

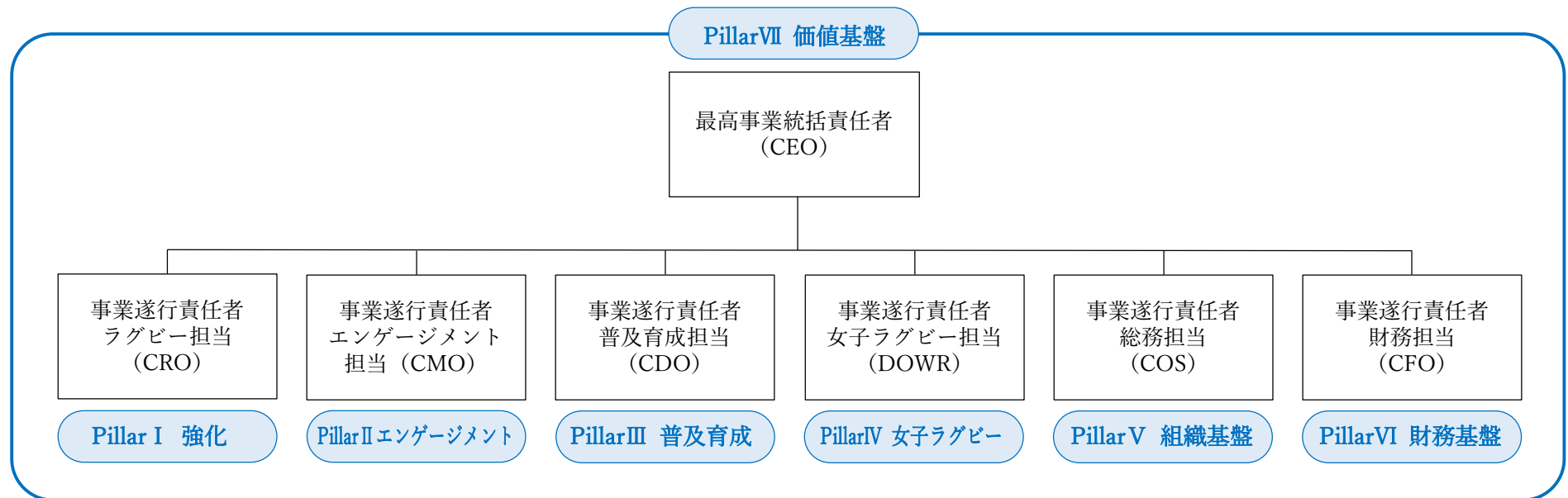
成長 サイクル	重要目標達成指標（KGI）		2025 年度末時点での実績（経過）と進捗・サマリ			
	項目	2028 年度末目標	実績（経過）	進捗*	サマリ	
競技力の 強化	RWC2025	ベスト 8	予選敗退	△	予選グループにおいて 1 勝 2 敗の 3 位（予選敗退）	
	RWC2027	ベスト 8 定着	—	○	上位国に勝利し、世界ランキングは 12 位に上昇	
	2028 ロス五輪	男女メダル獲得	—	○	女子セブンズは過去最高の 3 位を獲得した	
収益力の 強化	総収入	100 億円 (CMO 管轄で 70 億円)	69 億 2400 万円	△	協賛及びチケット販売が予算を下回り、総収入は 2024 年度を下回った	
	JAPAN RUGBY ID	50 万人	40 万人	○	各種のエンゲージメント施策が奏功し、順調に増加している	
関係人口 の拡大	プレーヤー	100,000 人 (うち女子 8,500 人)	89,008 人 (うち女子 5,155 人)	○	小学生は減少するも、中高生は微増。新規登録者の拡大に加え、離脱しないパスウェイ構築をサポートした	
	登録者**	20,000 人	15,380 人	○	セーフティーアシスタントについて、5,142 人の新規登録（資格付与）があった	
	体験者	120 万人	—	—	小学校授業（タグラグビー実施者）の計測方法について調整中	
基盤強化	エンゲージメ ント指標	JRFU	3.50	3.32	—	2025 年度に初めて調査を実施し、中期目標を設定した
		都道府県協会	3.50	3.29	—	2025 年度に初めて調査を実施し、中期目標を設定した
	一般正味財産		20 億円	－1.4 億円	△	2025 年度決算において 8.5 億円の赤字となった

*進捗の見方：◎計画以上、○ほぼ計画通り、△計画未達

**登録者：レフリー、コーチ、セーフティーアシスタントの合計

事業遂行体制と重要業績評価指標（KPI）について

4つの成長サイクルに掲げた重要目標達成指標（KGI）を達成するため、協会事業を、強化、エンゲージメント、普及育成、女子ラグビー、組織基盤、財務基盤という6つのPillarに分解し、全体を価値基盤がカバーする構造としました。2025年度の事業遂行に際しては、Pillarそれぞれについて、遂行責任者と推進組織を定め、達成目標として、重要業績評価指標（KPI）を設定した上で、各種事業に取り組んでまいりました。



2025 年度事業報告

Pillar I 強化

Pillar II エンゲージメント

Pillar III 普及育成

Pillar IV 女子ラグビー

Pillar V 組織基盤

Pillar VI 財務基盤

CEO 直轄組織

2025 年度事業報告

Pillar I 強化（CRO）

重要業績評価指標（KPI）	2025 年度末目標	2025 年度実績	進捗	サマリ
男子 15 人制世界ランキング	10 位	12 位	◎	RWC2027 抽選においてバンド 2 に入ることができた
男子 15 人制代表キャップ数	600	417	○	アイルランド代表戦（11 月 8 日）
女子 15 人制世界ランキング	8 位	11 位	△	RWC2025 初勝利なるも予選プール敗退
7 人制男子セブンズシリーズ	定着	予選敗退	△	チャレンジャーシリーズトップ 8 に入るも最上位大会への昇格ならず
7 人制女子セブンズシリーズ	トップ 8	3 位	◎	ドバイシリーズにて 3 位に入る
RWC レフリー	1 名	－	○	U20 チャンピオンシップ準決勝担当レフリー、6Ns AR を輩出
五輪レフリー	1 名	－	○	女子ワールドシリーズレフリーを輩出
フルタイムレフリーの育成	10 名	－	◎	2 名と新規契約を締結した
HP コーチの発掘と育成	定性目標	－	△	スキル担当コーチ 1 名を輩出した
重症事故	0 件	16 件	△	前年度 17 件に対して 1 件の減少

進捗の見方：◎計画以上、○ほぼ計画通り、△計画未達

アクションアイテム	事業計画	実績
ゲーム開発とカレンダー調整	・リーグワン、チームと連携した強化と年間スケジュールの策定 ・選手層の拡大と国際経験値の向上 ・ロスオリンピック出場、メダル獲得に向けた国際大会への参戦による強化の推進 ・ロスオリンピックを見据えた選手の発掘と育成・強化 ・ハイパフォーマンス戦略 ・ユース戦略 ・代理人登録制度の運用	・15人制・7人制のアクションプランに関しては、計画通り実施、男子15人制に関しては目標の世界ランキング12位以内となった。女子RWCに関しては、目標のベスト8に到達はできず、プール戦にて1勝2敗の成績を収めた。7人制については、男子強化については目標未達、女子はシリーズ3位の最高位を獲得した ・レフリーについては若手育成の進んだ一年と総括している。ハイパフォーマンス部門では、男女15人制・7人制のチームディレクター、HC、ハイパフォーマンス部門関係者が連携するハイパフォーマンスプロジェクトを開始し連携強化を図った。世界のラグビーカレンダーと各国の強化体制を調査し、今後の日本代表強化に繋げたい。 ・脳震盪の客観的判断を行うiMGマウスガード運用を女子15人制、7人制に実施。基本的な暑熱対策ルール検討会を実施・策定した
科学的手法の活用	・世界トップと互角に戦える状況の創出 ・代表チームの保有するスキルコンテンツの共有による各カテゴリー強化への寄与 ・強化合宿・S&Cセッションを通じた、ワールドスタンダードのマインドセットと身体強化 ・所属クラブと連携したS&C領域の強化と土台構築 ・拠点化の推進とハイパフォーマンス環境の整備 ・開発・科学情報	・JAPAN BASE 整備を推進、現状老朽化及びグラウンドの状況を改善すべく、計画施設改善を実施することとし、まず第2グラウンドの整備を進め人工芝化を行った ・女子7人制のゲーム機会及び普及拡大を目指し、太陽生命セブンズウイメンズシリーズに、チャレンジャー大会を創出し、普及拡大に着手。7人制大会の競技力及び強化の効果に繋がったと考えている。 ・男子7人制は、国内大会の拡大を目指し、ジャパンセブンズを引き続き開催（10チーム）また、普及拡大を目指し、ジャパンベース7's2025交流会を実施、タイチーム、国スポ単位のチーム8チームで交流会をJAPAN BASEを会場として開催した ・更に、国内大会拡大に向けての施策検討を進め、2026年には国スポ単位のチームを対象とした普及大会の三地域及び県協会による大会創設に目鼻をつけた ・プレーヤーウェルフェアの観点から、ワールドラグビー推奨のプレー時間の管理について、国内案を策定した ・テクニカルサービス関連に携わる人材育成を推進、各種トレーニング&エデュケーショ

	・戦略アドバイザー及び専属アナリスト（要員確保） ・ワールドラグビーのトレーニング&エデュケーション制度の運用 ・ドーピング検査の適切な実施	ンの機会を設けた結果、ゲーム運用に問題はなかった。特にマッチコミッショナーに関しては、職員他からの推薦者を選抜、教育を行った上で実践に投入した ・アンチ・ドーピングに関する啓発推進を実施、問題発生はなかった。一方で大麻吸引などのインテグリティ課題の問題が発生し対応した
レフリー育成強化	・レフリーアカデミーとナショナルレフリースコード ・海外レフリーの招聘 ・レフリーの海外派遣 ・マッチオフィシャル総務費 ・トップレフリーの拡充 ・懲罰制度業務の体制強化と運用 ・ワールドラグビーレギュレーションの国内での運用	・レフリングに関する取り組みについては、JRFU との契約レフリーを増員するなど、計画通り推進した ・レフリー人材の確保・拡充・技術向上に向けての取組として、ナショナルレフリースコード」を創設し、運用を進めた。海外レフリーの招聘をリーグワンレギュラーシーズンで実施し、国内レフリーとの交流や技術レビューを行い、双方の技術力向上に努めた ・女子レフリーにおいては、池田レフリーがワールドラグビーのゲームヘアポイントされるなど、着実にステップアップしている。 ・レフリー部門においては、リーグワン全試合において分析・チームからの問い合わせに対応、膨大なレビューを通して、技術力向上に努めており、国内レフリーの技術向上は着実に進んでいる
コーチの発掘・育成	・RWC2027 を見据えた若手世代の環境整備と強化育成 ・コーチ育成・評価	・JTS プログラムに関しては、2 年目を迎えて着実に推進、今期に関しては協会セレクションだけでなく、自薦者も対象として、キャンプに参加させ育成の幅と機会を拡大した ・高校代表と U20 の連携が進み、高校代表が 3 月のツアーにおいて U19 イングランド代表に初めて勝利した ・コーチの評価の仕組みを整備し、男子 15 人制代表チームに対しては、シーズンを通してヘッドコーチのフィードバックアンケートを実施した。女子 15 人制代表チームについても、RWC2025 が終わったタイミングでレビューを行った
安全対策の実行	・各種情報のデジタル管理による業務効率化	・すべての登録チームを対象に安全推進講習会を実施するとともに、安全なラグビーの実現に向け「セーフティーアシスタント制度」の運用や「外傷・障害対応マニュアル」の改訂版を配布した。刷新された登録システム（ラグビーファミリー）を導入し、資格管

	・ワールドラグビーにおけるプレーヤーウェルフェア対応 ・情報収集、スキル支援	理の効率化とオンライン講習会への移行によるコスト削減を実現した。2025 年度はスポーツセーフティ領域の取り組みを強化し、暑熱・落雷・心停止などのリスク対策について知見の蓄積を図るとともに、各種ガイドラインの策定や事業運用を進めた。安全対策への知識・意識向上を目的として、日本ラグビーフットボール協会ホームページでの情報発信や、各種通達を発信した。
--	---	---

2025 年度事業報告

Pillar II エンゲージメント (CMO)

重要業績評価指標 (KPI)		2028 年度末目標	2025 年度実績	進捗	サマリ
入場料		20 億円	14 億円	△	大学選手権、女子選手権は想定を上回ったが、代表戦は伸び悩んだ
放映権料		10 億円	5.5 億円	△	キックオフ時間の調整、複数年先までのテストマッチ見通しが必要
協賛金		30 億円	26 億円	△	代表協賛以外の営業を強化する必要がある
SAKURA CLUB	会員数	50,000 人	24,000 人	△	プレミアム会員を 6,000 人から 8,000 人に拡大した
	会員売上	5 億円	1.5 億円	△	ベンダーとの協議を重ね収益拡大を図った

進捗の見方：◎計画以上、○ほぼ計画通り、△計画未達

アクションアイテム	事業計画	実績
ホスピタリティの拡充	・ホスピタリティプログラムの拡充	・オーストラリア戦と大学選手権のそれぞれの状況から、改めてコスト管理の重要性を再認識した。支出を販売価格の 35%以内に抑えるべく、売れ行きに応じた支出管理を行う必要がある。また、BtoB 向けのボックス席の営業が十分ではないことから、試合決定と同時に過去の購入者にアプローチするなど、顧客リストの拡充に努める。大会興行が売上全体の 20%以上となるよう、更なる販売強化と効率化を進める
国内外における露出の拡大	・国内外における露出の拡大 ・デジタルコンテンツの拡充・最適化	・地上波での中継は最低限確保できたが、露出自体は、NHK、NTV、TBS に限定され、それ以上の拡大ができず、RWC に向けた大きな課題と言える。また、地上波の枠が土日の昼間帯に限定されており、今後は TV 局に対して早めにアプローチする必要がある ・デジタルコンテンツについては、WSC を導入したことにより、動画の投稿数は圧倒的に増えたが、今後はトレンドを含め更なる改善が必要である。また、フォロワー数自体を増やす SNS 施策など必要である。また、チケットの売上に寄与するような分かりやすい投稿も必要であり、デザインや訴求方法についても改善が必要
新たなメニュー・仕組みの開発	・新たなメニュー・仕組みの開発 ・男女代表共同プロモーション ・試合運営のテンプレート化	・新しいメニューは確立できなかったが、協賛社から選手や HC の稼働要望があることが分かり、今後は選手や HC の稼働を含めた運用体制を考える ・女子 RWC2025 に際しては、SMBC 様、アサヒビール様が中吊り広告や駅広告などで宣伝いただき、壮行試合でも 5,000 名を超える集客を達成することができた ・男女代表戦の興行については、仙台での PNC 日本対カナダ、ヨドコウでの JAPAN XV 対オーストラリア A 戦が予算未達であった以外は、会場選定から運営費用まで特段の問題はなかった。なお、集客が難しい会場においては、招待や優待、同種のキャンペーンを行う必要あり
ファン基盤を統一し、データに基づくアプローチ	・ファン基盤の統一とデータに基づくアプローチ	・SAKURA CLUB では、プレミアム会員が上限の 8,000 名をほぼ達成。目標は達成できたが、今後はチケット先行優先販売以外の特典を更に訴求する必要あり ・2026 年度の代表戦発表を受けて、目標である 25,000 人に近づけることができているが、収支全体としては、更なる改善ができるように根本的な仕組みの検討を行う

2025 年度事業報告

PillarIV 普及育成 (CDO)

重要業績評価指標 (KPI)		2028 年度末目標	2025 年度実績	進捗	サマリ
プレーヤー	登録プレーヤー数	90,000 人	89,008 人	○	小学生は減少したが、中高生は微増となった
	SMBC カップ参加者数	12,000 人	7,334 人	△	小学生からの継続を考慮し、中学生への拡大を検討している
	プレーヤー継続率	未設定	—	—	2026 年度以降に設定 (新システム導入後に測定)
	地域大会の開催数	未設定	—	—	2026 年度以降に設定 (2025 年度実績に基づき目標設定)
	プレー環境の整備	定性目標	—	○	チーム規程の変更や新規大会の設立などを行った
登録者	コーチ資格者数	13,000 人	13,546 人	○	安定的に講習会を開催すると共に、C 級コーチエドューケーターを配置
	レフリー資格者数	未設定	8,429 人	—	中期期間中の目標は 2026 年度以降に設定
	セーフティー アシスタント資格者数	14,000 人	13,145 人	○	受講を無料化したことで、新規に 5,142 人が取得した
	登録者の満足度	未設定	—	—	顧客満足度調査を行う
	全世代パスウェイの整備	定性目標	—	○	HP での記事掲載、イベント時の配布物など情報発信を強化した

重要業績評価指標（KPI）		2028 年度末目標	2205 年度実績	進捗	サマリ
体験者	ノンコンタクトラグビープログラム	定性目標	－	◎	ワールドラグビーと連携し、T1 Rugby の展開を実施
	体験会及び タグラグビー体験会	30,000 人	－	△	登録に関する見直しを行っている
	学校教育における ラグビー体験者	1,110,000 人	－	－	2027 年度に実施調査を行う予定
	SNS フォロワー数（X）	3,000 人	2,784 人	◎	
	JAPAN RUGBY TV 視聴回数 （普及育成関連）	350,000 回	330,000 回	○	
体制強化	JRFU 普及予算	5 億円 or 5%	2.86 億円	△	全体の 4.1%に留まった
	スタッフ数	職員 13 人 専門官 9 人 RDO14 人	職員 9 人 専門官 4 人 RDO11 人	△	RDO は専門スタッフ（分析など）2 名を含む
	RDO 配置数	11 エリア +3 地域	10 エリア	△	エリア調整及び人材発掘に時間を要した
	三支部協会と都道府県 協会の役員数	未設定	－	△	規程の見直しを含む、関係整理が必要

進捗の見方：◎計画以上、○ほぼ計画通り、△計画未達

アクションアイテム	事業計画	実績
ラグビーを安全・安心にプレーできる環境をつくり、プレーヤーを増やす	・ミニラグビー	・フレンドリーマッチを釜石市で開催することで、プレー機会と交流の場だけでなく、学びの機会として震災学習も行い事業を発展させることができた
	・ジュニアラグビー	・太陽生命カップ、全国ジュニア大会において、地域の参加枠を拡大して開催した ・47都道府県でのベースキャンプの開催や7人制の拡大のための指導者研修会を開催、太陽生命 1day スクールなど、中学生の育成環境の充実にも取り組んだ
	・クラブ (Over15)	・X (クロス) エリアユースラグビーを岩手県、富山県、熊本県で新規開催し、福島県、香川県、和歌山県でも継続開催した。また、実施映像のアーカイブ化にも取り組んだ。沖縄では、T1 Rugby を使って大人を対象とした呼び戻し企画を実施した
	・女子	・活動拠点事業を宮崎県、奈良県で開催、ミニやジュニアで女子選手のプレー機会や女子レフリー起用の拡充を図った
ラグビーに関わる環境をつくり、支える人の質を高める	・コーチング	・C 級～S 級と各種コーチ講習会の開催。また、女子指導者養成会を継続して開催し、指導者の数も増加した。代表チームと協力してエディ・ジョーンズ HC がコーチカンファレンスに登壇した。C 級コーチエデュケーター義務研修会・養成講習会を開催した。また、ワールドラグビースーパーウィークを開催し、ワールドラグビー 트레이ナー、エデュケーターを養成した
	・パスウェイ	・ラグビーへの多様な関わり方を紹介するクリアファイル・冊子を作成し、学校などへ配布し周知拡大を行った。また、ラグビーに関わっている方々へのインタビュー記事を HP へ掲載した
	・レフリー	・大会におけるレフリーの配置やレフリングガイドラインの作成を通して、普及育成委員会などと密にコミュニケーションがとれる体制を整えた
	・教育	・ラグビー・エンパワメント・プロジェクト、ラグビー体験授業を継続開催、認知度も向上し、企業や自治体、リーグワンを含む社会人チームとの連携も拡げることができた

ラグビーに触れられる環境をつくり、体験者を増やす	・ノンコンタクト	・ SMBC カップを開催すると共に、地域担当者を含む関係者と改革に向けた分科会を開催。中学生ラグビーなど、次のステップに向けた改革に取り組んだ ・ ワールドラグビーと連携し、T1 Rugby の展開に取り組み、テストイベント開催や情報発信を行った
	・ みんなでラグビー	・ マネジャー会議や自治体と連携したノンコンタクトラグビープログラムの実施に加え、障がい者とラグビーをつなぐためのワークショップなどを開催した
	・ コミュニケーション	・ ラグビーファミリーガイド（HP）の改修を行った。また、SNS による情報発信の強化とツールを増設、発信内容や回数の増加といった運用の改善も行った
	・ 国際協力	・ ユースリーダーシッププログラムでは、フィリピン協会に協力頂き開催、オンラインセッション、対面セッションを実施した。また、JRFU、リーグワン、JICA の 3 者連携協定が結ばれ、豊田市で協定連携事業を実施した
	・ 地域連携	・ RDO を増員すると共に、都道府県協会とのエリア会議を実施し、都道府県ごとの普及育成戦略計画の策定を進めた ・ 放課後ラグビープログラムを 5 会場で開催し、開催地の拡大を拡大させた
	・ スクラムジャパンプログラム	・ 都道府県協会、市区町村協会の理解も拡がり、申請数が増加、申請の継続率も上昇した
各領域のアクションプランを遂行するための在籍基盤及び組織基盤をつくる	・ 登録制度	・ 個人登録料の統一、及び登録に関連する規程の見直しや制度変更を実施した ・ システムの改修により、登録者（プレーヤー、資格者など）の定量データを効率的に出せるようになり、モニタリングや分析、活用方法を整理した

2025 年度事業報告

PillarIV 女子ラグビー (DOWR)

重要業績評価指標 (KPI)	2028 年度末目標	2025 年度実績	進捗	サマリ
近隣県同士の交流活動	12 地域での実施	3	○	三地域それぞれにおいて 1 件ずつ活動サポートができた
平均入場者数 (日本代表戦)	5,000 人	3,822 人	○	RWC2025 機運醸成の取り組みが観客動員増に繋がった
平均同時視聴者数	800 人	541	○	太陽生命 WSS の認知度向上が視聴者数の増に繋がった
三支部協会・都道府県協会 女性理事	各 1 人 (各都道府県)	25	△	三支部集中会議で議論するなど啓蒙活動を継続している

進捗の見方：◎計画以上、○ほぼ計画通り、△計画未達

アクションアイテム	事業計画	実績
指定地域での成功モデル構築（パスウェイ構築）	・いつでも・どこでも・誰でも、生涯に渡り、ラグビーに携わる環境を整備する（拠点・人的リソース）	・全国都道府県理事長会議において、希望する取り組みについてヒアリングを行い、その中から要望の多かった女子代表選手との交流を含めた近隣県交流を下期に実施した ・関東、関西、九州地域での近隣県交流を実施することができた。2026年度は全年代で参加できる交流大会を三地域で実施することを計画している ・代表強化部門、ハイパフォーマンス部門、女子戦略推進担当にて、成人の大会について、2026年までの年間スケジュールを策定し、選手補強や強化計画を立てられるよう、対象チームにも共有した
女子ラグビーコンセプトに沿ったプロモーション（コミュニティ構築）	・女子ラグビーの認知度を高め、共感者を増やし、女子ラグビーコミュニティを拡大していく	・昨年度に続き、認知度調査を実施し、RWC2025機運醸成に伴う効果を測定、サクラフィフティーンについては、認知度の向上が顕著であった。女子ラグビーブランディングについては、JRFU100周年に合わせて発表できるよう、検討を進めた ・オウンドメディアでの情報発信については、ガールズラグビーチャンネルを含め、広報室、ジャパンラグビーマーケティングとも連携し、効率的・効果的な発信に取り組んだ ・女子日本代表戦をライブ放送（BS）できたことは、今後の地上波放送実現に向けた大きな一歩になったと考えている ・代表戦に関しては、男子代表戦との連携や協賛社の屋外広告、SNS PR などもあり、過去最大のプロモーションを実施することができた
D&I 推進宣言の推進（リーダーシップ育成、エリートコーチ育成）	・ラグビー界において女性活躍を促進し、女性の社会進出を後押しする、フロントランナーを輩出する	・選手のニーズに応じたキャリアセミナー（OG選手の講話と金融経済教育セミナー）を3月に、女子選手のラグビー離れを減少させる方法を提示するセミナーを11月に開催した
	・女性エリートコーチを増やすため、将来代表チームのコーチになり得る有望な女性コーチの育成を促進する	・女性 HP コーチアカデミー受講生4名は、太陽生命 WSS 全大会で、チャレンジチームのインターンコーチ実施後、U18 アジア女子セブンズ HC として指導やマレーシア女子 7's 代表チームでの指導など、国際経験を積み、プログラム自体の成果を上げている

2025 年度事業報告

Pillar V 組織基盤 (COS)

重要業績評価指標 (KPI)		2028 年度末目標	2025 年度実績	進捗	サマリ
一人あたりの経常収入		85 百万円	68 百万円	△	収入予算未達により年度目標は達成できず
都道府県協会総収入		100 百万円増加	29 百万円増加	◎	当年度の結果は各協会の独自の努力による成果であり、当協会としては、都道府県協会の財源確保のためのサポート策を検討し、計画化した
自治体と都道府県協会との連携事業の事例数		47 件	10 件	△	3 月にアンケートを実施し、事例数を収集
自治体ワンチーム加盟自治体		全都道府県	6 自治体	○	5 自治体には継続アプローチ中。当年度は都道府県の新規加盟はなく、引き続き、各種機会をとらえアプローチを継続していく
エンゲージメント 指標の肯定率	職員	50%	31%	△	今回のサーベイ結果を検証し、対応策を継続している
	都道府県協会	50%	50%	○	既に肯定率は 50% を達成しているが、この水準を維持・向上していくことを目指す
不祥事		0 件	5 件	△	研修などの取り組みは継続的に実施した

進捗の見方：◎計画以上、○ほぼ計画通り、△計画未達

アクションアイテム	事業計画	実績
プロフェッショナル組織としての環境整備	・オフィス環境の改善 ・組織カルチャーの変革と部門体制強化 ・多様性を考慮した採用・育成・サポートなどのプラン ・福利厚生プランの導入及び見直し ・体系化された研修計画に基づく研修の実施 ・人事関連規則・手当関連の見直しを行い、組織基盤の再構築 ・ハラスメント撲滅への取組 ・100周年事業と絡めた、職員向けの取組の検討（組織カルチャー再構築） ・業務効率化・生産性向上へ向けた取り組み ・人材戦略の見直し	（エンゲージメント向上） ・人材戦略について、制度や仕組みの構築から、それらのブラッシュアップや運用面の改善、組織の高度化に繋げることに主眼を移すものへの改正を実施、公表した ・オフィスの大型 TV モニターを活用した組織内コミュニケーション向上策を立案実行したほか、規律のある職場環境を整備するためのルール制定と徹底を推進した ・職員のエンゲージメント向上策の一環として、福利厚生サービスの導入や新入職者への研修の拡充と定期的な面談を継続して実施した ・ハラスメント撲滅策の一環として、職員へのコンプライアンスサーベイを年度内に3回実施し、職員へのフィードバックを行うと同時に、改善策を検討した （効率化・生産性向上） ・職員への貸与ツールや業務アプリの棚卸、複合機入替などによるコスト状況の見える化を実施、職員のコスト意識の向上のための教育や指導を進めた ・AI 使用に関するガイドラインを整備し、使用方法をガイダンスすることで、業務における AI ツールの安全な運用を開始する体制を整えた ・職員の業務知識・スキル向上や、管理職のマネジメント能力に繋がる研修について、研修体系に基づき強化すると同時に、e ラーニングの併用により、より効率的・広範囲に学ぶ機会を提供し、職員の自己啓発意識を醸成しつつ能力向上を推進した （リスクマネジメント） ・危機管理、災害管理に関しての役割分担・連携方法を関連部門間で整理し、安否確認システムの導入やコンプライアンス研修などを推進した ・個人情報保護体制確立のための現状調査を行い、対応方針を決定、その後、プライバシーポリシー及び、個人情報保護方針の見直し、職員への研修を実施した （組織カルチャーの変革） ・100周年記念事業プロジェクトと足並みを揃え、式典の計画を推進した

三支部協会・都道府県協会との連携強化	・事務局・執行部両レベルの三支部連絡会議の位置づけ明確化と継続開催・本部と三支部のあり方の議論実施 ・財源などリソース確保のための施策の検討・案の取りまとめ	(三支部連携) ・事務局レベルの定期会議のテーマ、会議方法についてレビューと連携強化を図った ・関西協会の中期戦略計画策定プロジェクトの開始を受け、定期的に情報交換を実施した(都道府県協会とのコミュニケーション強化) ・全国都道府県協会理事長会議において、ワークショップを盛り込むことで意見の吸い上げや各協会間のコミュニケーション向上が実現された(地域エコシステム確立サポート) ・モデル協会として3協会を選出、全国都道府県理事長会議で進捗報告を行い、リソース増強のための好事例を創出に努めた。今後も複数年タームでフォロー・検証したい(非興行収入の強化・活用) ・スクラムジャパンプログラムやJRFU基金について、地域還元モデルを検討し、モデル協会を中心に意見を聴取した
ステークホルダー(リーグワン、ジャパングビーマーケティング、自治体など)との連携強化	・戦略達成のために必要な組織整備と役割明確化 ・非興行収入事業についての方針、達成レベルの組織合意及び体制整備・スキーム検討 ・自治体ワンチームとの連携強化 ・RDOと業務推進部門の連携強化による、都道府県協会と自治体とのマッチングの推進、事例づくり、好事例の共有と横展開の実施	(関連組織との連携強化) ・リーグワンとの普及連携の検討プロジェクトを進め、共同ステートメントを発信した ・連携強化へ向けた階層別グループ連携会議について検討を進めた(自治体と都道府県協会との連携事業創出) ・日本代表戦の機会を活用し、自治体・都道府県協会との連携施策を実施した。RWC2025パブリックビューイングを活用した自治体・地域協会と連携による施策を推進した。女子RWCとしては過去最大規模のPV展開が実現できた ・未就学児向けキャラバンなど、協賛社との協業コンテンツを活用した自治体・都道府県協会連携事業を実施した。RDOと連携し、地域エコシステムモデル協会との取り組みを通じた、都道府県協会と自治体との連携施策を実施した(自治体ワンチームとの連携強化) ・代表戦、各種イベントをきっかけとした自治体ワンチームへの加盟促進策を実施し、新たに6自治体が加盟された

		・オーストラリア代表戦において、自治体の方々のラグビーへの理解を深める機会とすべく担当者研修会を開催した他、日本代表戦の試合会場における共同事業として、自治体による環境サステナビリティブースを展開した。また、RWC 招致立候補を表明したことに伴い、自治体ワンチームからのサポートを依頼し、総会にて決議頂いた
コンプライアンス遵守の徹底	・アンチ・ドーピング教育の推進 ・アンチ・ドーピング委員会の運営	・予定していた対象試合において NF-R やシャペロンを手配し、競技会検査を適切に滞りなく実施した。また、登録チーム、女子、大学、リーグワン、代表チームを対象とした研修会を実施した。若年層の選手を対象に、アウトリーチ活動を実施し、花園では大学生に協力頂き、知識のアウトプットの機会を作ることができた
	・ガバナンス強化	・ガバナンスアンケートの実施及び報告、ガバナンス研修会の開催を予定どおり実施した。新たに研修後アンケートを導入し、意見などを集約の上、今後に向けた改善を行う
	・コンプライアンス体制の強化 ・インテグリティ追求の推進	・インテグリティ推進部門で対応した事案は年間 60 件となり 2024 年度比倍増となったが、弁護士チームとの連携により、適切に事案対応を行った。また、匿名や調査に及ばない通報事案については、都道府県協会と情報共有やフォローアップを実施した ・大学ラグビー部における薬物問題を契機に、専門家チームと連携し、大学における不祥事発生への対応ガイドラインと 2 つの教育プログラム（違法薬物、一般教養）を新たに策定、2026 年度の導入を予定している ・代表チームを対象とした対面式のインテグリティ研修を開催した。また、職員に対するコンプライアンス研修を実施、研修後の管理職に対するフィードバックを行った ・職員向けにコンプライアンスサーベイを導入した。サーベイは 4 半期ごとに実施し、結果を全職員に共有することで意識向上を図った
	・情報の収集及び発信	・2025 インテグリティ推進講習会を展開し、約 3,000 人が受講した。2026 インテグリティ推進講習会も 3 月中旬からラグビーファミリー及びホームページで開始した。登録チーム及び大学ラグビー部を対象に、コンプライアンスアンケートを実施し、結果をホームページで公開した。相談窓口の認知度は 80%を超えている

		・コンプライアンスの状況や注意喚起を行うため、通達の発出（6回）、機関紙の記事掲載（4回）、都道府県理事長会議での発信（2回）、インテグリティ追求ホームページの更新（2回）を行った
	・コンプライアンス委員会の運営	・委員会を4回開催し、緊急性のある情報についてはメールで情報共有を行った
サステナビリティに関する取り組みの推進	・組織カルチャーの変革と部門体制強化	・マイボトルの推進や名刺の再資源化を実施したほか、代表戦におけるプロトコル対応で、容器のリユース品対応やサステナビリティに関するポスターを掲示した
	・多様性を考慮した採用・育成・サポートなどのプラン	・障害者雇用及び雇用後のサポート体制について検討を行った。障害者雇用方針についても検討を行い、募集経路や受入れ準備は完了した
	・コアバリューやD&I、環境サステナビリティ関連の職員意識向上施策	・コアバリューの定着を図るため、人事評価制度（行動評価）へ組み込み、職員への意識付けを図った。引き続き周知と評価サポートを行いながら、更なる意識付けを図りたい
	・環境サステナビリティ	・（環境）代表戦3試合におけるCO2排出量を計測し、取り組みの方向性を定めることができた。多くの観客が移動することに伴う排出がほとんどである状況を踏まえ、試合興行の機会を通じて、観客の意識と行動の変容を生み出すための機会づくりとした ・（DE&I）JRFUとリーグワン職員、合同での研修を実施した。また、日本代表戦においても啓蒙ブースを展開した

2025 年度事業報告

PillarVI 財務基盤 (CFO)

重要業績評価指標 (KPI)	2028 年度末目標	2025 年度実績	進捗	サマリ
一般正味財産の積み上げ	10 億円以上 (単年度 2 億円以上)	-8.5 億円	△	赤字決算により、積み上げは実現できず

進捗の見方：◎計画以上、○ほぼ計画通り、△計画未達

アクションアイテム	事業計画	実績
投資・支出に対するルール体系化	・支出ガイドラインの作成	・定期的に会議を開催し、課題の洗い出しや対応策を協議・決定した。精算に関する一部運用変更を実施、経費精算に関するガイドライン及びマニュアルを更新した
	・投資効果測定と管理フローの検討・確立	・意見交換や情報収集を継続した
	・金融商品の管理・検討	・意見交換や情報収集を継続し、四半期毎に定期報告を行った
	・事業規模拡大と法改正への適応	・法改正などの情報収集を継続すると共に、定期的な会議を開催し、精算運用フローの変更を行うなど効率化に取り組んだ
	・チェック機能の強化	・事業遂行責任者及び内部監査室と連携を図り予実管理及び次期予算方針を協議した
主体的な財務管理	・収支予算の適正化と配分方針の検討と決定	・定期的な実績報告と見通し収集・報告を行った
	・既存システムの最大活用と周知	・精算運用に関する一部運用変更、マニュアルなどを更新した ・定期的な会議にて課題を共有し、対策を協議したが、管理オプションの導入は見送ることとした

2025 年度事業報告

CEO 直轄組織

アクションアイテム	事業計画	実績
JRFU としてのラグビーの価値の言語化	・ラグビーの価値を考える	・「価値を考える場」と称した MTG を 4 回開催し、価値基盤の位置づけについて協議した結果、価値基盤は、他の 6 つの Pillar を包括する位置づけであることから「価値を高める」「価値を守る」「価値を伝える」に示した事業については、当該組織を管掌する Pillar に再配置することとした
	(RWC 招致プロジェクト) ・ロビイング活動 ・RWC2025 広報・PR ・会議関連	・RWC2035 招致に正式に立候補し、1 月 23 日に RWC2035 日本招致メッセージとして、日本ラグビーに根付き、大切にしている精神である「NO SIDE SPIRIT」を発表、日本国内だけではなく、世界に向けて発信することができた。今後、招致活動を通じて、この大事な精神を広く伝えていきたい
リスク・ガバナンス	・事業計画の進捗モニタリング	・これまで通り、Q1、Q2 終了後に進捗モニタリングを実施、また、Q3、Q4 については、2026 年度の計画へ連鎖させるため、12 月に 2025 年度の暫定レビューを行った
	・事業計画・事業報告・アニュアルレポート	・2024 年度の事業報告とアニュアルレポートは 6 月末に発行した。2026 年度事業計画については、3 月末に公表した
	・ガバナンスコードへの適切な対応	・ガバナンスコード自己説明については、2026 年度に適合性審査が予定されている点を踏まえ、内容を精査して実施、10 月末に公表を行った
	・危機管理	・12 月に安否確認システムを導入し、訓練を実施した。危機管理規程及び危機管理マニュアルの改正については、最終承認は 2026 年 5 月となった
	・ラグビー重症外傷への最先端医療推進支援基金プロジェクト (R+MED 基金)	・6 月にホームページを開設し、オンライン寄附を開始、その後、主催試合会場での出展に合わせて、パンフレットなどを作成した。また、周知促進のため、ドクターカンファランスや全国都道府県理事長会議、機関誌において紹介を行うと共に、安全対策委員会やアスリート委員会との連携体制を強化した
JAPAN BASE 事業推進	・安定・安心な施設運営運用 ・2026 年経営健全化・ROA 改善 ・中期戦略を見据えた成長ベクトル ・強固な組織基盤創り	・JAPAN BASE としての中期事業再建計画の 1 年目として、事業戦略を根本から見直し、リブランディングを核とした再構築を実施、「ラグビーの普及育成」・「スポーツ振興」のための地域循環型施設創りを展開し、行政・自治体・地域・企業などのステークホルダーへの認知や評価の向上、利用促進に努めた

	・ 強靱な財務基盤創り	・ 事業再建に取り組むべき重点領域を 5 分野に定め、収入拡大と費用削減を行うための様々な戦略的施策を打出し、実行した。自主事業企画（5 施策）、スポンサー獲得（新規 21 社）、サッカー・野球・バスケット・大相撲など、他の競技団体への施設利用促進、企業との事業協創パートナーシップや事業アライアンス、企業研修など MICE 促進、また福岡の地の利を生かしアジア HUB として海外代表、海外スポーツ団体の誘致を行った結果、事業収入は対前年比 120%となった ・ 費用については聖域なき 10%削減を目標として、電気ガス通信などのインフラを含む各種契約スキームの全面見直し、施設運営事業者の再選定、提供料金の見直しなど、様々な取り組みを通じて、費用削減に努めた ・ ROA 改善を中期的な再建目標に掲げ、2027 年度までの事業単年度黒字化を目指し鋭意、事業改革を推進している ・ 施設の経年劣化が著しく、電気、空調、上下水道を始め、グラウンドなどとその施設の設備修繕に関わる投資を行う必要性が発生した。現時点では、ラグビー日本代表の強化施設としての要求水準を十分に満たしていない状況だが、引き続き自己資金を投下して設備改修を実施し、並行して施設価値向上のための DX 化推進、CDM、ADM などの選手・アスリートの睡眠・栄養などのデータ可視化に加え、新たなシーディングを行い、アスリートや競技団体のコンディション維持管理を行い施設としてのフェアバリュー向上を行っていく
ラグビーの価値に関わる情報発信の実施（広報・国際）	・ ラグビーファン拡大に繋がるコミュニケーションを強化し、国民的人気スポーツとして認知されるポジションを獲得する ・ ラグビーの価値を守り高めるための広報を通じ、競技の好感度と信頼をより高める	・ 従来の広報対応に加え、ファン向け PR 発信とマスコミ向け情報提供それぞれの分野で、新たな取り組みにチャレンジし、一定のレスポンスと露出実績が確認できた ・ 他部門連携強化のほか、業務可視化と負荷平準化を進め、年間通じ安定的な広報運営が保たれた ・ ラグビーの社会的価値創出への意識が高まり、各種取り組みへの積極的参画及びその広報に注力できた

	・海外からの情報の共有・海外への情報発信とジャパンラグビーのプレゼンスの向上 ・RWC 招致のプロジェクトを推進しながらジャパンラグビーのプレゼンスの向上 ・ワールドラグビー・アジアラグビー ・社会連携・国際連携のための体制確立	・この1年は、国際連携の強化と RWC 関連施策を中心に、多方面で成果を上げることができた。リスク・ガバナンス室と連携しながらアニュアルレポート英訳版を完成させると共に、RWC 招致に関してはワールドラグビーへ EOI（開催意向）を正式に表明し、今後のダイアログフェーズへ進む基盤を整えた ・RWC2025 に向けた機運醸成活動として、自治体ワンチーム総会や全国都道府県理事長会議などを通じて、女子 RWC 及び女子日本代表の活躍を広く発信したほか、RWC2025 報告会を実施し、大会現地の様子や国内での普及・広報活動について共有を行った ・RWC 期間中及びワールドラグビー理事会期間中には、ワールドラグビー幹部との打ち合わせやネットワーキングの構築に努めた。加えて、彬子女王殿下の渡英及びモナコ訪問に伴う交流を通じて、日本ラグビーとワールドラグビー及び在外公館との関係強化にも寄与することができた ・国際関係分野では、SEARF（South East Asia Rugby Federation）及び Fiji との MOU 締結を実現したほか、今後 MOU 締結の可能性があるユニオンに対する継続的なアプローチも進め、国際的な連携基盤の拡充を図った
--	---	---

日本代表活動

男子 15 人制

男子 7 人制

女子 15 人制

女子 7 人制

男子 15 人制

活動報告

1.JAPAN XV

- 5 月 20 日 JAPAN XV78-28NZU (別府)
- 5 月 24 日 JAPAN XV30-21NZU (大分)
- 5 月 31 日 JAPAN XV64-12 ホンコン・チャイナ代表 (別府)
- 6 月 28 日 JAPAN XV20-53 マオリ・オールブラックス (秩父宮)
- 10 月 18 日 JAPAN XV7-71 オーストラリア A (大阪)
- 10 月 24 日 JAPAN XV59-1 ホンコン・チャイナ代表 (啓徳)

2.テストマッチ

- 7 月 5 日 日本代表 24-19 ウェールズ代表 (北九州)
- 7 月 9 日 日本代表 22-31 ウェールズ代表 (神戸)
- 10 月 25 日 日本代表 15-19 オーストラリア代表 (国立)
- 11 月 1 日 日本代表 7-61 南アフリカ代表 (イングランド)
- 11 月 8 日 日本代表 10-41 アイルランド代表 (アイルランド)
- 11 月 15 日 日本代表 23-24 ウェールズ代表 (ウェールズ)
- 11 月 24 日 日本代表 25-23 ジョージア代表 (ジョージア)

3.パシフィックネーションズカップ

- 8 月 30 日 日本代表 57-15 カナダ代表 (仙台)
- 9 月 7 日 日本代表 47-21 アメリカ代表 (アメリカ)
- 9 月 14 日 日本代表 62-24 トンガ代表 (アメリカ)
- 9 月 20 日 日本代表 27-33 フィジー代表 (アメリカ)

4.キャンプ

- 5 月 16 日～6 月 1 日 JAPAN XV (大分)
- 6 月 4 日～11 日 JAPAN XV (菅平)
- 6 月 16 日～7 月 13 日 日本代表 (宮崎)
- 8 月 15 日～28 日 日本代表 (宮崎)
- 10 月 6 日～22 日 日本代表 (宮崎)

5.海外遠征

- 8 月 31 日～9 月 22 日 PNC (アメリカ)
- 10 月 29 日～11 月 24 日 (イングランド、アイルランド・ウェールズ・ジョージア)

U20 日本代表

1.試合

- 5 月 16 日 U20 日本代表 52-45NZU (大分)
- ワールドラグビーU20 トロフィー (中止)

2.国内キャンプ

- 4 月 19 日～27 日 U20 日本代表候補合宿 (大阪)
- 5 月 11 日～17 日 U20 日本代表合宿 (大分)
- 11 月 30 日～12 月 1 日 U20 日本代表候補トライアル合宿 (奈良)
- 12 月 7 日～8 日 U20 日本代表候補トライアル合宿 (東京)
- 2 月 4 日 U20 日本代表候補 FW 合宿 (埼玉)
- 2 月 19 日～20 日 U20 日本代表候補 FW 合宿 (埼玉)
- 2 月 25 日 U20 日本代表候補 FW 合宿 (東京)
- 3 月 8 日～10 日 U20 日本代表候補合宿 (東京)

JTS (JAPAN TALENT SQUAD)

1.国内キャンプ

1月25日（東京） 2月5日～8日（東京、埼玉）
2月12日～14日（千葉） 2月17日～18日（東京）
2月26日～3月1日（神奈川、埼玉）
3月6日～8日（東京、千葉） 3月17日～23日（千葉）
3月29日～4月1日（千葉）

2.試合

4月5日 U23 日本代表 43-31 オーストラリアバーバリアンズ（オーストラリア）
4月11日 U23 日本代表 26-54U20 オーストラリア（オーストラリア）
4月15日 U23 日本代表 31-36 ランドウィック（オーストラリア）

3.海外遠征

4月1日～16日（オーストラリア）

男子7人制

1.活動報告

(1)大会

ワールドラグビーHSBC セブンズチャレンジャークラフ大会(4月11日～12日、8位)

なの花薬局ジャパンセブンズ（7月13日、優勝）

アジアラグビーエミレーツセブンズシリーズ中国大会(9月20日～21日、準優勝)

アジアラグビーエミレーツセブンズシリーズスリランカ大会（10月18日～19日、準優勝）

Coral Coast Fiji Sevens（1月15日～17日、21位）

(2)国内合宿・海外合宿

3月30日～4月4日（福岡） 4月5日～14日（ポーランド）

6月1日～6日（福岡） 6月14日～22日（熊谷）

7月6日～13日（浦安） 7月19日～22日（別府）

8月7日～13日（福岡） 8月19日～24日（別府）

9月4日～16日（福岡） 9月17日～23日（中国）

10月5日～13日（福岡） 10月14日～20日（スリランカ）

12月14日～19日（別府） 1月5日～10日（福岡）

1月11日～19日（フィジー） 1月26日～2月1日（別府）

2月10日～15日（福岡） 2月26日～3月3日（福岡）

3月4日～10日（カナダ） 3月16日～20日（福岡）

3月28日～4月2日（福岡）

男子セブンズユース・シニアアカデミー

1.活動報告

(1)国内合宿

(ユース 6 回)

第 73 回 (4 月 18 日～20 日) 第 74 回 (7 月 11 日～13 日)

第 75 回 (11 月 21 日～23 日) 第 76 回 (2 月 28 日～3 月 2 日)

オンラインミーティング (5 月 22 日、6 月 26 日)

(シニア 4 回)

7 月 9 日～13 日、8 月 1 日～3 日、2 月 3 日～5 日、2 月 13 日～15 日

(2)国内大会・国際大会

ユース アジアラグビーエミレーツ U18 男子セブンズ (9 月 14 日～15 日、優勝)

Coral Coast Fiji Sevens (1 月 15 日～17 日、13 位)

シニア なの花薬局ジャパンセブンズ参加

(3)海外遠征

シニア 2 月 20 日～26 日 (香港)

女子 15 人制

1.活動報告

(1)試合

4 月 26 日 日本代表 39-33 アメリカ代表 (ロサンゼルス)

Asia Rugby Women's Championship

5 月 15 日 日本代表 90-0 カザフスタン代表 (JAPAN BASE)

5 月 25 日 日本代表 63-5 ホンコン・チャイナ代表 (JAPAN BASE)

7 月 19 日 日本代表 32-19 スペイン代表 (ミクニ)

7 月 26 日 日本代表 30-19 スペイン代表 (秩父宮)

8 月 9 日 日本代表 15-33 イタリア代表 (サンミシエル)

RWC2025 (イングランド)

8 月 24 日 日本代表 14-42 アイルランド代表

8 月 31 日 日本代表 19-62 ニュージーランド代表

9 月 7 日 日本代表 29-21 スペイン代表

女子7人制

1.活動報告

(1)大会

HSBC SVNS シンガポール大会(4月5日～6日、5位)

HSBC SVNS ワールドチャンピオンシップ ロサンゼルス大会 (5月3日～4日、7位)

アジアラグビーエミレーツセブンズシリーズ中国大会(9月20日～21日、優勝)

アジアラグビーエミレーツセブンズシリーズスリランカ大会(10月18日～19日、優勝)

HSBC SVNS 2026 ドバイ大会 (11月29日～30日、3位)

HSBC SVNS 2026 ケープタウン大会 (12月6日～7日、5位)

HSBC SVNS 2026 シンガポール大会 (1月31日～2月1日、7位)

HSBC SVNS 2026 パース大会 (2月7日～8日、6位)

HSBC SVNS 2026 バンクーバー大会 (3月7日～8日、7位)

HSBC SVNS 2026 ニューヨーク大会 (3月14日～15日、6位)

(2)国内合宿・海外合宿

3月31日～4月7日 (シンガポール)

4月21日～27日 (熊谷) 4月28日～5月6日 (アメリカ)

5月12日～15日 (熊谷) 8月25日～9月2日 (定山溪)

9月12日～18日 (和歌山) 9月18日～22日 (中国)

9月24日～27日 (熊谷) 10月15日～20日 (スリランカ)

10月9日～15日 (熊谷) 10月28日～11月3日 (NZ)

11月17日～24日 (沖縄) 11月24日～12月1日 (UAE)

12月23日～26日 (熊谷) 1月8日～15日 (徳島)

1月21日～27日 (別府)

1月27日～2月1日 (シンガポール)

2月24日～3月2日 (福岡)

2月2日～10日 (オーストラリア)

3月2日～9日 (カナダ)

3月9日～17日 (アメリカ)

女子セブンズユース・シニアアカデミー

1.活動報告

(1)国内合宿

(ユース 7回)

第103回 (4月13日～15日)

第104回 (5月15日～17日)

第105回 (6月7日～9日)

第106回 (7月5日～7日)

第107回 (11月9日～12日)

第108回 (11月21日～24日)

第109回 (1月28日～31日)

(シニア 5回)

5月12日～15日

6月23日～27日

9月24日～27日

12月23日～27日

3月16日～22日

(2)太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ (シニア・ユースでチャレンジチームとして出場)

4月17日～21日 (熊谷、12位) 7月17日～21日 (北九州、10位)

7月30日～8月3日 (花園、12位)

8月14日～18日 (グランドファイナル札幌大会、1勝1敗)

(3)国内大会・国際大会

ユース アジアラグビーエミレーツ U18 セブンズ (9月14日～15日、準優勝)

Global Youth Sevens (12月20日～21日、3位)

シニア Nanairo CUP 北九州「KYUSHU WOMEN'S SEVENS」 (3月20日～21日、優勝) SDS と合同チームで参加

専門委員会

ガバナンス委員会

コンプライアンス委員会

監査委員会

ハイパフォーマンス委員会

ユース委員会

アスリート委員会

安全対策委員会

メディカル委員会

アンチ・ドーピング委員会

競技運営委員会

普及育成委員会

女子委員会

財務委員会

ガバナンス委員会

1.委員会開催実績

5月、6月

2.活動実績

6月に予定されていた評議員改選に向けて、役員候補者の考え方（内部理事、外部理事の考え方など）についての議論が行われた

3.特記事項

委員会で議論された内容や提言などは、委員長から随時理事会にて報告された

コンプライアンス委員会

1.委員会開催実績

5月28日、7月23日、10月25日、2月25日

2.活動実績

- (1)不祥事案（違法薬物問題を含む）の共有及び対応を協議
- (2)コンプライアンス関連の規程整備
- (3)コンプライアンス関連の研修の計画検討
- (4)コンプライアンスの問題状況の把握と評価
- (5)コンプライアンスに関わる体制の整備

監査委員会

1.委員会開催実績

メールによる情報共有を実施

2.活動実績

- ・ラグビードクターカンファレンス会計報告書の監査を実施
- ・関東協会の未収金に関する事項の調整

ハイパフォーマンス委員会

1.委員会開催実績

全体会議（7月、8月、11月、12月）

2.活動実績

- ・RWC2025 及び女子15人制代表ヘッドコーチのレビュー実施
- ・女子15人制代表ヘッドコーチの候補者検討
- ・各代表チーム、各カテゴリーの共通課題に関する議論
- ・共通で取り組みが必要な施策についての検討
- ・女子ラグビーのカレンダーに関する検討

3.特記事項

- ・最重要課題としてハイパフォーマンスデータベースの早期構築が必要
- ・女子コーチ人材の発掘・育成の必要性について確認

ユース委員会

1.委員会開催実績

JRFU 内ワーキンググループ (WG) での決定事項及び推進事項、高体連からの提案を书面承認

2.活動実績

- ・実務面での専門性が求められるため「安全対策」「安心対策」に関し、それぞれの専門部門での検討 WG への参画、決定事項の承認事項が増加傾向
- ・インテグリティ・ハイパフォーマンス・テクニカルサービス・普及育成の各部門と連携し、各種課題に対応するための議論を通じ、実務に落とし込む事項の承認が活動の中心となった
- ・高校日本代表チームに関する事項、教師のコーチングを学ぶ機会について、高体連からの推薦及び要望に従い検討・実行。特に 2025 年度は、高校代表が U19 イングランドに史上初めて勝利するという結果を収めた
(以下について委員会で討議し、CRO に提言を行う)

- (1)男女ユース世代が安心・安全を第一にプレーできる環境を提供すると共に、ラグビーの価値を守る活動について
(インテグリティ推進部門) アンチ・ドーピング啓発策の実施
(テクニカルサービス部門)
- ・暑熱対策 WG を通じ、コミュニティラグビーにおける試合・大会運営のためのガイドライン策定に参画
 - ・避雷対策 WG を通じ、経験や勘に頼らない避難について議論
 - ・2026 年度以降、菅平高原で開催される各種大会で、具体的なアクションを実行する

- (2)普及育成事業のあり方 (リーグワン連携)

普及育成部門と連携し、リーグワン及びスクール担当者との議論を進め、具体的な取り組みを検討

- (3)将来的なユース世代における商業利用の枠組み検討

- (4)競技の安全性を目的としたカテゴリー独自ルールの検討

ワールドラグビー試験的ルール検証を通して、国内周知を行い効果測定

- (5)全国高体連ラグビー専門部及び外部関係者と連携し、情報を発信

- (6)大会実施などに関わる意思決定プロセスの明確化

- (7)大会運営などについて、全国高体連ラグビー専門部及び外部関係者と協議

アスリート委員会

1.委員会開催実績

8 月 28 日

- ・RWC2019 レガシー実行特別委員会・施設環境整備プロジェクトとの連携・連絡協議
- ・ラグビー重症外傷への最先端医療推進支援基金を新設したことによるアスリート委員会との協力体制について (HP など)
- ・ラグビー独自の「セカンドキャリアプログラム」を構築検討
- ・現役選手とのコミュニケーションの場を設ける重要性について議論
- ・リーグワンとアスリート委員会が連携し、セカンドキャリアについての取り組みの構築並びにディスカッションの場を設けることを検討

2.活動実績

(1)JOC アスリートフォーラム、スポーツ庁カンファレンスへの参加

- ・日本のスポーツ界が抱える各種課題の解決策やオリンピック講話などから様々な知見を得ることにより、参加オリンピック及びNF アスリート委員会の今後の活動を活性化させることを目的とした
- ・JOC アスリート委員会が中心となり、JOC 及び NF のアスリート委員会の合同ミーティング開催（各種課題の解決に向けた活動事例報告や意見交換）

(2)R+MED 基金への協力・サポート

- ・試合会場でのブース出展への支援
オーストラリア代表戦（10 月）大野、立川
大学選手権（1 月）梶原、中村
女子選手権（2 月）中村

3.特記事項

（課題）

- ・セカンドキャリアに悩む選手が多いことから、他競技の相談システム導入などを参考にラグビー界でも整備が必要
- ・特に女子セブンズにおいて深刻な課題となっていることから解決策を検討していく
- ・アスリート委員が各代表合宿に訪問し、アンケートを実施し、検証・分析する

安全対策委員会

1.委員会開催実績

6 月 24 日、9 月 24 日、12 月 16 日、3 月 17 日

2.活動実績

(1)安全推進講習会

2025 年 3 月 17 日～2026 年 2 月 28 日にオンライン提供（2,762 名）

(2)セーフティーアシスタント認定講習会

2025 年 3 月 17 日～2026 年 3 月 9 日にオンライン提供（6,318 名）

(3)ラグビー外傷・障害対応マニュアル

2026 年度版への改訂を進め、3 月中旬に冊子発行。記述変更、安全対策関連動画更新などを行い、アプリ版での提供も継続している

(4)傷害報告・見舞金制度・重症傷害報告・脳振盪報告などの報告制度

ラグビーファミリーのシステムを用い、傷害報告状況の一元管理を実現。リーグワンにおいて、脳振盪報告書のオンライン形式での運用を継続、2026 年度よりコミュニティレベルでも同報告書のオンライン運用を開始した。

(5)登録システムにおける資格管理

新しく稼働した登録システムで、セーフティーアシスタント、AT、ICIR などの資格保有者の管理を実現した

3.特記事項

日本代表のテストマッチの際、観客救護対応に関して大会運営部門と連携し、体調不良者のケアに努めた。昨年度から引き続き、地方開催も含め外部機関の協力をいただき、ファーストレスポnder（FR）による救護体制を全会場で構築・運用した

メディカル委員会

1.委員会開催実績

三支部連絡協議会（1月17日）、総会（3月14日）

2.活動実績

- ・主催試合医務担当
- ・日本代表チームメディカル部門担当（海外遠征帯同ドクター派遣）
- ・リーグワン・メディカルコントロール部会への協力
- ・マッチデイドクター（チームドクター含む）の養成
- ・ラグビードクターカンファレンスの開催（6月14日）
- ・アジア協会加盟国への協力
- ・ワールドラグビーマッチデイドクター資格の取得推進（ICIR レベルⅡ更新講習会開催、7月20日、9月7日、21日）

3.特記事項

コロナ禍以降、直接の交流が途絶えていたが、今年度アジア協会の要請により香港代表対韓国代表の試合に医師1名をメディカルコンプライアンスマネージャーとして派遣した

トレーナー部門

1.委員会開催実績 2026 年度トレーナー部門会議 3月14日（青山）

- (1)来期の部門体制・役割・業務確認
- (2)本年度事業報告、進行状況確認
- (3)来期事業計画
- (4)その他

2.活動実績

- (1)トレーナーセミナー 1月16日～18日 211名受講
- (2)トレーナー研修会
 - 九州（6月28日久留米、20名受講）
 - 関東（2月22日順天堂、91名受講）
 - 関西（3月7日大阪、28名受講）
 - 女子ラグビー関係者向けトレーナー研修会（4月19日JISS、43名）
- (3)JSPO-AT 養成講習会受講推薦者選定 応募7名から2名を選出
- (4)トレーナー派遣（公募）
（トレーナー）女子7人制・15人制、U20代表、15人制ユース・高校代表
（マッサージセラピスト）男女15人制代表合宿、海外代表チーム
（セーフティーアシスタント）第31回全国ジュニア大会

3.特記事項

- ・リーグワン外傷・障害調査データを用いた論文投稿に関する報告
- ・リーグワンパネルレフリーのコンディショニングサポート（トライアル）
実施状況報告
- ・セミナー・研修会の受付業務にラグビーファミリーシステム利用開始

アンチ・ドーピング委員会

1.委員会開催実績

6月22日、12月7日、3月14日

2.活動実績

(1)ドーピング検査事業

- ・JADA 及び日本スポーツフェアネス推進機構と連携し、ドーピング検査に協力した（NF-Rep の派遣、シャペロン手配）
- ・JADA 及びワールドラグビーの居場所情報管理の対応についての指導助言、代表総務などのチーム担当者へ居場所情報管理に関わるチームスケジュール提出をサポートした
- ・医薬品などの問い合わせについて、指導助言を6件行った

(2)アンチ・ドーピング教育啓発活動

- ・ワールドラグビー及びJADA のアンチ・ドーピング教育プログラムに基づき、教育啓発活動を各カテゴリーに実施した（日本代表、大学リーグなど）
- ・アウトリーチプログラムの展開（ジュニア世代大会、国際試合）
- ・禁止物質に関する問い合わせへの対応（フォームでの運用）

(3)アンチ・ドーピングに関する研究活動

- ・スポーツ医学関連学会や薬学関連学会における学術発表を行った
- ・ワールドラグビー研究助成の申請を行った
- ・JADA 主催のアンチ・ドーピング教育会議に参加し、他団体と教育プログラムなどの情報共有に努めた

競技運営委員会

主催大会

1.国際試合

(1)男子 15 人制日本代表戦

国際試合、テストマッチ国内開催

6月28日 リポビタン D チャレンジカップ（秩父宮、19,792 人）

JAPAN XV20-53 マオリ・オールブラックス（キャップ非対象）

7月5日 リポビタン D チャレンジカップ（北九州、13,487 人）

日本代表 24-19 ウェールズ代表

7月12日 リポビタン D チャレンジカップ（神戸、25,074 人）

日本代表 22-31 ウェールズ代表

10月18日 アサヒスーパードライ CHALLENGE MATCH（ヨドコウ、10,105 人） JAPAN XV7-71 オーストラリア A 代表（キャップ非対象）

10月25日 リポビタン D チャレンジカップ（国立、41,612 人）

日本代表 15-19 オーストラリア代表

(2)パシフィックネーションズカップ（男子 15 人制日本代表戦）

8月30日 プール戦（仙台、11,187 人） 日本代表 57-15 カナダ代表

(3)女子 15 人制日本代表戦

国際試合、テストマッチ国内開催

5月15日 女子アジアラグビーエミレーツチャンピオンシップ（JAPAN BASE） 日本代表 90-0 カザフスタン代表（無料試合）

5月25日 女子アジアラグビーエミレーツチャンピオンシップ（JAPAN BASE） 日本代表 63-5 ホンコン・チャイナ代表（無料試合）

7月19日 太陽生命 JAPAN RUGBY CHALLENGE SERIES（北九州、2,401 人） 日本代表 32-19 スペイン代表

7月26日 太陽生命 JAPAN RUGBY CHALLENGE SERIE(秩父宮、5,244人) 日本代表 30-19 女子スペイン代表

(4)女子 15 人制国際試合

5月20日 女子アジアラグビーエキシスチャンピオンシップ (JAPAN BASE) ホンコン・チャイナ代表 29-12 カザフスタン代表 (無料試合)

2.なの花薬局ジャパンセブンズ

10 チームトーナメント方式 (7月15日秩父宮)

優勝 男子 SDS、準優勝 大阪府警

3.第 62 回全国大学選手権大会

14 チームトーナメント方式 (11月～1月) 優勝 明治、準優勝 早稲田

大学大会部門

(1)第 76 回全国地区対抗大学大会 (12月29日～1月6日瑞穂)、参加 8 チーム、優勝 山梨学院

(2)部門会

全国大会の実施要項の協議、並びに大会発展のための施策検討を行った

国スポ部門

(1)第 79 回国民スポーツ大会 (成年男子・少年男子・女子、10月滋賀)

少年の部 決勝 大阪府 17-12 福岡県

成年男子の部 決勝 秋田県 28-5 滋賀県

女子の部 決勝 山口県 22-14 福岡県

(2)第 80 回大会以降の開催県・開催地・都道府県協会、及び日本スポーツ協会と打合せを実施

社会人部門

(1)支部協会主催、各社会人リーグの普及発展強化施策検討のため部門会実施

(2)三地域社会人リーグ順位決定戦の実施・試合運営

(3)リーグワンと支部協会を含む JRFU との連携 (新規参入などの協議)

クラブ大会部門

(1)第 33 回全国クラブ大会

1 回戦 1月18日、準決勝 2月5日、決勝 15日、参加 8 チーム

優勝 ハーキュリーズ (東京)、準優勝 北海道バーバリアンズ (北海道)

(2)学生クラブ東西交流フェスティバル (9月5日～7日菅平、14 チーム)

交流戦及び安全対策・TJ・レフリー講習会などを実施

(3)第 24 回東西学生クラブ対抗試合 (12月14日熊谷)

早稲田大学 GW38-0 関西学院大学上ヶ原

(4)U19 クラブユース交流大会

3月21日～22日 (JAPAN BASE) 福岡ユース他合同 (九州)、渋谷コルト (関東)、神戸 SCIX (関西) 合同練習会・クリニック・交流試合・懇親会実施

(5)部門会 (6月、10月東京、1月愛知) 各大会運営・日程・大会概要協議並びに支部協会管下クラブ環境の情報交換など

高校大会部門

1.高校大会・研修会

(1)サニックスワールドラグビーユース交流大会 (4月28日～5月5日グローバルアリーナ) 決勝 大阪桐蔭 20-17 佐賀工

(2)第 12 回全国高校 7 人制大会 (7月23日～27日菅平)

カップ決勝 國學院栃木 33-7 大分東明

(3)KOBELCO CUP 第 21 回全国高校合同チーム大会 (8 月 1 日～3 日菅平)

U17 カップ優勝 近畿、U18 カップ優勝 九州

(4)第 56 回全国高専大会 (1 月 4 日～9 日神戸)

決勝 奈良工業高専 29-5 仙台高専名取キャンパス

(5)第 105 回全国高校大会 (12 月 27 日～1 月 7 日花園)

決勝 桐蔭学園 36-15 京都成章

(6)第 18 回U18 合同チーム東西対抗 (1 月 5 日花園)

高校西軍 35-26 高校東軍

(7)第 50 回高校指導者研修会 (1 月 10 日～12 日東京)

講師 3 名、受講者 18 名

(8)第 27 回全国高校選抜大会 (3 月 25 日～31 日熊谷)

決勝 東福岡 33-22 桐蔭学園

2.高校女子大会

(1)サニックスワールドラグビーユース交流大会 (4 月 28 日～29 日グローバルアリーナ) 決勝 関東学院六浦 19-5 四日市メリノール学院

(2)第 15 回全国高校女子合同チーム大会 (8 月 1 日～3 日菅平)

女子カップ優勝 九州

(3)第 8 回全国U18 女子セブンズ大会 (10 月熊谷)

決勝 四日市メリノール学院 12-7 関東学院六浦

(4)U18 花園女子 (12 月花園)

女子東軍 17-12 女子西軍

女子大会部門

(1)太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ

チャレンジャートーナメント (5 月 5 日～6 日 JAPAN BASE)

1 位 日本経済大学女子 AMATERUS、2 位 BRAVE LOUVE、3 位 早稲田大学女子部、4 位アザレア・セブン

第 1 戦 熊谷大会 (6 月 21 日～22 日) 優勝 PEARLS

第 2 戦 北九州大会 (7 月 20 日～21 日) 優勝ながとブルーエンジェルス

第 3 戦 花園大会 (8 月 2 日～3 日) 優勝 PEARLS

グランドファイナル 札幌大会 (8 月 17 日)

(総合順位決定トーナメント) 1 位ながとブルーエンジェルス、2 位 PEARLS、3 位 YOKOHAMA TKM、4 位ナナイロプリズム福岡、5 位 日本体育大学女子、6 位 東京山九フェニックス、7 位 北海道バーバリアンズディアナ、8 位 自衛隊体育学校 PTS

(入替戦)3 チームが 2026 シリーズ出場権を獲得 横河武蔵野 Artemi-Stars、ARUKAS QUEEN、VENUS

(2)Women's College Sevens 第 12 回大学女子 7 人制大会 (6 月 7 日～8 日熊谷) 優勝 日本体育大学女子、準優勝 立正大学女子

(3)第 12 回全国女子大会 (1 月 17 日～2 月 1 日)

決勝 YOKOHAMA TKM21-12 横河武蔵野 Artemi-Stars

普及育成委員会

1.委員会開催実績

全体会議（4月、3月）、部門長会議（11月）、部門別会議

2.活動実績

(1)コーチング

- ・オンラインスタートコーチ（取得者数 2,016 名）、C 級コーチ 52 回（621 名）、B 級コーチ 6 回（131 名）、A 級コーチ 5 回（136 名）、S 級コーチ 1 回（取得者数 6 名）
- ・ブラッシュアップ研修会 スタートコーチ（更新者 274 名）、コーチカンファレンス（261 名）、スキルアップ研修会（19 名）
- ・コーチカンファレンス（7月～10月）
- ・女性コーチ養成講習会 C 級コーチ（女性限定）2 回（21 名）、B 級コーチ（女性限定）1 回（9 名）
- ・コーチング教材制作 ワールドラグビーレベル 2 ワークブック

(2)小学生（U12）

- ・ブロック別地域交流大会、ジャンボリー
- 第 27 回菅平ミニラグビー・ジャンボリー交流大会（7 月 20 日～21 日、1,690 名）
- 第 3 回北海道小学生スクールジャンボリー（9 月 27 日～28 日、600 名）
- 第 18 回関西ミニラグビー・ジャンボリー交流大会（6 月 28 日～29 日大阪、1,011 名）
- 第 24 回北陸ブロックミニラグビー交流大会（10 月 5 日福井、137 名）
- 第 37 回四国ラグビースクール大会（11 月 23 日高知、365 名）
- 第 2 回近畿ブロック U10 ミニラグビー交流大会（2 月 10 日滋賀、350 名）

- 第 1 回フレンドリーマッチ東海交流会（10 月 19 日三重、110 名）
- 第 52 回九州ミニラグビーラグビー交歓会（8 月 29 日～31 日熊本、469 名）
- 第 26 回西九州ミニラグビー交流会（6 月 14 日～15 日福岡、465 名）
- 第 26 回東九州ミニラグビー交流大会（10 月 15 日大分、787 名）
- 第 26 回南九州ミニラグビー交流大会（11 月 2 日宮崎、683 名）
- 第 18 回沖縄県ブロックミニラグビー交流大会（2 月 21 日沖縄、138 名）
- ・ミニラグビーレフリー講習会（8 月、9 月、2 月）

大阪府 2 回、長崎県、福岡県、兵庫県 2 回、宮崎県、神奈川県 2 回、千葉県 2 回、東京都 4 回、長野県、秋田県、鹿児島、大分県、岩手県、奈良県、京都府、参加者 264 名

- ・FOR ALL ミニラグビーフレンドリーマッチ（10 月 4 日～5 日釜石鶴住居、8 チーム、選手 114 名、コーチ 40 名）
- ・SMBC カップ全国小学生タグラグビー大会（2 月 23 日～24 日熊谷）30 チーム（選手 262 名、コーチ 60 名）、中学生以上特別交流戦 143 名、併催イベント 36 名

- ・ミニラグビー指導者講習会
- 関東地区ミニラグビー指導者講習会（3 月 1 日辰巳、16 名）
- ラグビースクール指導者講習会（3 月 14 日近畿大、30 名）
- 九州指導者プロモーション講習会（7 月 6 日中津市体育センター、40 名）

(3)中学生（U15）

- ・地域交流大会（ジャンボリー大会）
- 第 2 回東日本ジュニア北海道ジャンボリー（9 月 20 日～21 日野幌）
- 第 27 回東日本ジュニア菅平ジャンボリー（7 月 26 日～27 日菅平）
- 第 46 回関西中学生大会（兼）第 27 回関西中学生数河ジャンボリー（7 月 25 日～27 日）
- 第 29 回中四国ジュニアジャンボリーU15 大会（9 月 20 日～21 日広島）
- 第 29 回中四国ジュニアジャンボリーU14 大会（12 月 20 日～21 日徳島）

第 27 回九州ジュニア福岡ジャンボリー（1 月 24 日～25 日福岡）
 第 27 回九州ジュニア鹿児島ジャンボリー（11 月 29 日～30 日鹿児島）
 ・ U15 ジュニアラグビー都道府県ベースキャンプ活動（各地）
 ・ 三地域ブロック大会
 第 45 回東日本中学生大会（兼）第 31 回全国ジュニア大会ファーストステージ（11 月 9 日～30 日）
 第 31 回全国ジュニア大会近畿スクール予選（11 月 15 日～16 日大阪）
 第 25 回ジュニア九州ブロック大会（10 月 11 日～13 日熊本）
 ・ 太陽生命カップ第 16 回全国中学生大会（9 月 13 日～15 日茨城）29 チーム（中学校・ラグビースクール各 8 チーム、都道府県代表女子 9 チーム、地域普及ブロック 4 チーム）
 各部優勝チーム（中学校）東海大付属大阪仰星高校中等部、（ラグビースクール）世田谷区ラグビースクール、（都道府県代表女子）福岡県女子代表、（地域普及ブロック）松本国際中
 ・ 第 31 回全国ジュニア大会 28 チーム、第 1・第 2 ブロック各 8 チーム（男子）、第 3 ブロック 4 チーム（女子）、地域普及ブロック 4 チーム（女子）
 各部優勝チーム 第 1 ブロック 福岡県代表、第 2 ブロック A 群馬県スクール代表、第 2 ブロック B 兵庫県スクール代表、第 3 ブロック 福岡県女子代表、地域普及ブロック 愛知県女子代表
 ・ ジュニアラグビー指導者講習会（安全・セブンズスキル、3 月 14 日大阪）

(4)クラブ（O15）

・ X（クロス）エリアユースラグビー 高校世代のプレーヤーに「ラグビーの楽しさ」を伝えるイベントとして、岩手県、熊本県、富山県で新たに実施、また和歌山県、福島県、香川県は昨年度から継続して開催した
 ・ 40 代、50 代元プレーヤー呼戻し施策 高校ラグビーがもっとも盛んだった世代の元プレーヤーに、再びラグビーに何らかの形で関わるきっかけになるような呼戻しのためのイベントをトライアルで実施（沖縄県）

(5)ノンコンタクト

・ T1 ラグビーの導入
 11 月 1 日 T1 ラグビーチャレンジ（辰巳）
 12 月 21 日 リーグワンチームと連携した体験会（釜石）
 2 月 1 日 女子選手権決勝併催イベント（東京・青山高）
 ・ タグラグビーティーチャー研修会（北海道、岡山県、熊本県、愛知県、長崎県、福岡県、奈良県、埼玉県、九州協会、373 名）
 タグラグビーエデュケーター養成講習会（九州協会、5 名）
 ・ 教員向けタグラグビー講習会 宮城（7 月 23 日、15 名）、京都（7 月 31 日 23 名）、東京（8 月 21 日 44 名）、大分（12 月 26 日 16 名）
 ・ タグフェスタ（小学生から全世代へ拡充）
 タグフェスタ（10 月 27 日佐賀 170 名）
 第 4 回とちぎタグラグビーフェスタ（9 月 20 日栃木）
 京都タグラグビーフェスティバル（2 月 15 日京都）
 山口県タグラグビー体験交流大会（12 月 29 日山口、110 名）
 第 12 回四国カップ小学生タグラグビー大会（9 月 6 日愛媛、137 名）
 タグラグビー交流大会ドリーム（9 月 21 日石川、200 名）
 ホンダカーズ埼玉北カップ（埼玉県タグラグビー交流会、10 月 5 日埼玉、400 名）
 タグラグビーフレンドシップフェスティバル・レフリー講習会（11 月 23 日、徳島 300 名）
 タグラグビーフェスティバル（10 月 25 日佐賀、150 名）
 滋賀県タグラグビーフレンドリーマッチ（11 月 24 日滋賀、120 名）
 長崎県タグフェスタ兼第 16 回 ORC カップタグラグビー大会（12 月 14 日長崎、150 名）
 第 9 回岩手県知事杯小学生タグラグビー大会（11 月 30 日岩手、100 名）
 東京ブロック・タグラグビーフェスタ（11 月 30 日東京、80 名）

愛媛県タグラグビーフェスタ（1月10日愛媛、190名）
 バレンタインタグラグビー大会（2月7日兵庫、300名）
 第23回タグフェスタ（1月17日宮崎、100名）
 岡山タグラグビー交流会（3月28日岡山ドーム、330名）
 第4回倉ちゃんフィール杯タグラグビー大会（3月22日鳥取、150名）
 福岡県タグラグビーフェスタ（2月15日福岡糸島、100名）
 第12回関西小学生タグラグビーチャンピオンシップ大会（12月20日滋賀、286名）
 NAOYA CUP 第1回全国中学生タグラグビー交流大会（3月21日～22日愛知、75名）
 第11回北陸タグラグビーフェスタ歓進帳 CUP（2月28日石川、380名）
 タグラグビーフェスタ若草杯（3月8日奈良、400名）
 ・ SMBC カップ第22回全国小学生タグラグビー大会
 都道府県大会（9月7日～1月4日、4,620名）
 ブロック大会（1月11日～2月1日北海道、東北、北関東、中関東、東京、南関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄、1,012名）
 本大会（2月22日～23日熊谷261名、中学生以上特別交流戦、148名）
 (6)みんなでラグビー
 ・ウォーキングラグビー（6月12日）、マネジャー会議（7月19日、21名）
 ・障がい者ラグビーとの連携イベント（ワークショップ9月～10月、4回、129名、2月23日ブラインドラグビー体験、46名）
 ・自治体連携事業（9月～10月、3回、104名）
 (7)教育
 ・ラグビー・エンパワーメント・プロジェクト（8月～12月、6回21名）
 ・高校生向け1dayセッション（5月24日東京、12名、5月30日、オンライン講座16名）
 ・高校生以上向け1dayセッション（5月31日、オンライン講座23名）

12月6日、本科第6回集合研修とのコラボセッション（18名）
 ・本科（8月～12月、21名修了）
 ・ラグビー教材制作（小学校低学年・中学年向き教材）
 ・ラグビー体験授業
 三菱自動車倉敷キングフィッシューズ 倉敷市（6月5日連島北小59名、6月18日赤崎小63名、1月26日旭丘小50名）
 JR 東海ラグビークラブ 名古屋市（1月21日大生小52名、2月17日森孝西小79名）
 大阪府警察ラグビー部 河内長野市（1月22日天野小45名、2月18日高向小49名）
 (8)国際協力
 ・アジアンスクラムプロジェクト
 JICA 海外協力隊派遣に向けてワールドラグビーレベル1講習の実施
 JICA 海外協力隊募集協力
 ・三者（JRFU、リーグワン、JICA）協定連携事業
 ラグビーで繋がる国際交流フェスタ（10月19日）トヨタヴェルブリッツ、豊田自動織機シャトルズ愛知、豊田通商ブルーウィング、中部電力ラグビー部協力、豊田スタジアム北側芝生広場で実施（86名）
 ・ユースリーダーシッププログラム
 フィリピン協会（PRFU）と連携し、多文化共生をテーマとしたプログラムを実施、フィリピン4名、日本4名の計8名参加
 (9)女子
 ・都道府県女子活動拠点事業（ガールズラグビーチャレンジ）
 宮崎県のべおか waiwai アリーナ（1月18日、6名、2月8日、22名）
 奈良県親里競技場（2月21日、26名）
 (10)地域連携
 ・みんなで繋げる！ラグビースクール体験会（3月～6月、1,806名参加、472

名入会)

- ・放課後ラグビープログラム (6 月～1 月、福岡県、高知県、愛媛県、岩手県、京都府、計 48 回、126 名)
- ・タグラグビー普及拠点事業 (神戸市、和歌山市・田辺市・上富田町、大分市、大館市、熊谷市、計 55 回、1,549 名)
- ・都道府県別普及育成中期戦略計画の策定に向けたエリア会議(6 月～9 月、九州、関東・甲信越、東海・北陸、北海道・東北、近畿・中四国、計 5 回、96 名)
- ・都道府県協会ポートフォリオの更新

(11)その他

- ・ポジラグ ForALL (ラグビーウェルビーイング)
HP、SNS による情報発信
ポジラグ ForALL セミナー開催 (11 月 9 日、79 名、講師 栗林千聡)
(テーマ) コーチのメンタルヘルスー思考と感情との上手な付き合い方
- ・スクラムジャパンプログラム 申請 75 件

女子委員会

1.委員会開催実績

三支部女子委員長・事務局担当者会議 (4 月 8 日、5 月 12 日、7 月 14 日、9 月 8 日、10 月 20 日、11 月 10 日、12 月 8 日、1 月 19 日、2 月 9 日、3 月 9 日)

2.活動実績

PillarIV 女子ラグビー (DOWR) に記載

財務委員会

1.委員会開催実績

11 月

2.活動実績

財務面から運営改善に向けた提言を行った

- (1)2025 年度予算・実績管理の補助
- (2)2026 年度予算策定方針についての助言
- (3)財産運用方針及び実績管理についての助言

支部協会

関東ラグビーフットボール協会

関西ラグビーフットボール協会

九州ラグビーフットボール協会

関東ラグビーフットボール協会

主催試合

1.普及育成委員会

第76回関東中学校大会、太陽生命カップ第16回全国中学生大会関東地区選考試合
第19回東日本U15中学生ラグビークラブ大会、太陽生命カップ第16回全国中学生大会東日本地区ラグビースクールの部2ndステージ&女子の部1st.ステージ
菅平ミニラグビー・ジャンボリー交流大会
第27回東日本ジュニアラグビー菅平ジャンボリー
第31回全国ジュニア大会関東甲信越地区中学校の部選考試合
第7回東日本ジュニアラグビー東北ジャンボリー兼第46回東北中学生交流大会
第3回東日本ジュニアラグビー北海道ジャンボリー兼第43回北海道ラグビースクール中学生大会
第3回北海道小学生ラグビースクールジャンボリー、第36回北海道ラグビースクール小学生大会
太陽生命カップ第16回全国中学生ラグビー大会北海道東北地区予選
第45回東日本中学校大会、第31回全国ジュニアラグビー大会東日本地区ラグビースクールの部2ndステージ&女子の部1stステージ
第23回東日本U15中学生ラグビー選抜大会

2.社会人委員会

ジャパンラグビートップイーストリーグ春季交流戦トーナメント
ジャパンラグビートップイーストリーグ秋季公式戦・入替戦

全国社会人トーナメント大会

3.クラブ委員会

第33回全国クラブ大会 関東第3代表決定戦
第35回東日本クラブ選手権大会の主催(兼第31回全国クラブ大会東日本地区予選)
第22回東日本トップクラブリーグ(主催)
第44回ラグビーフェスタ in SUGADAIIRA(主催)
第42回東北クラブ選手権大会(主催)
第31回ラグビーフェスタ in HACHIMANTAI(主催)
第13回東北クラブラグビーセブンズ(男6チーム、女4チーム)
第16回東日本クラブセブンズ(社会人の部、学生の部、主催)
サンケイスポーツ杯第33回関東学生クラブ選手権大会(主催)
東日本マスターズ大会(主催)

4.女子委員会

関東女子セブンズ
第8回全国U18女子セブンズ大会東北ブロック予選、関東ブロック予選、北海道ブロック予選
第36回関東女子大会 第9回関東U18女子セブンズ大会

5.大学委員会

第26回東日本大セブンズ大会 第14回関東大学春季交流大会
関西協会100周年記念試合
第12回関東大学ラグビーオールスターゲーム supported by 建デポ
対抗戦A、リーグ戦1部 秋季公式戦
第47回関東大学ジュニア選手権大会 関東理工系リーグ
北海道地区大学大会 東北地区大学ラグビーリーグ

第 75 回全国地区対抗関東 2 区 関東医歯薬大学ラグビーリーグ

6.高校委員会

(地区大会)

第 52 回北海道高校大会 (7 月 26 日～30 日)

第 76 回東北高校大会 (6 月 12 日～15 日)

第 73 回関東高校大会 (6 月 6 日～8 日)

第 47 回北信越高校大会 (6 月 21 日～22 日)

(ブロック国スポ・第 79 回国民スポーツ大会予選会)

北海道大会 (6 月 12 日～14 日) 東北大会 (8 月 22 日～24 日)

関東大会 (8 月 21 日～24 日) 北信越大会 (8 月 17 日～24 日)

(第 27 回全国高校選抜大会地区予選)

北海道新人大会 (10 月 29 日～11 月 1 日)

東北新人大会 (2 月 11 日～14 日) 関東新人大会 (2 月 7 日～15 日)

北信越大会 (2 月 14 日～22 日)

(合同チーム大会)

北海道大会 (5 月 4 日～5 日) 東北大会 (3 月 8 日)

関東大会 (3 月 14 日～15 日) 北信越大会 (3 月 20 日～22 日)

7.メディカル委員会

関東協会主催試合 マッチドクターの手配

JRFU・リーグワン主催試合 マッチドクター、メディカルコミッショナー、
観客救護DR・看護師手配

後方支援病院依頼

8.レフリー委員会

関東協会主催試合 レフリー手配

JRFU・リーグワン主催試合 レフリー・AR 協力

9.安全対策委員会

安全対策の情報を発信

10.コーチ委員会

講習会開催、情報を発信

11.セレコン強化委員会

関東エリアの強化について

12.広報委員会

メディアとのやり取り、幅広い情報発信

13.プロモーション委員会

観客動員、大会の価値を高める活動

14.登録傷害者見舞金審査委員会

見舞い金手続きの処理・審査

15.規律委員会

規律に則ったプレーかどうか、審査

16.総務法務委員会

契約書内容確認

17.競技委員会

大会の競技における担務を担う活動

関西ラグビーフットボール協会

1.総務委員会

総務委員会開催（計8回）

2.医務委員会

関西協会管内公式戦 マッチドクター派遣・後方支援病院依頼
医務委員会開催（計3回）、第10回ドクターカンファレンスへの参加
関西協会100周年記念メディカルポロシャツ作成

3.レフリー委員会

新規関西B パネル認定・A パネル昇格研修
関西協会管内公式戦 マッチオフィシャル派遣
レフリーミーティング（5月～7月、9月～12月、月3回）

4.強化・セレクション委員会

強化・セレクション委員会開催（2回）、学生東西対抗戦の西軍の編成
強化・セレクション委員派遣（大学リーグ戦・大学選手権など）

5.コーチ委員会

総務部会開催（計2回）、各種講習会開催

6.U12普及育成委員会

（ミニ部門）

関西協会100周年記念第18回関西ミニジャンボリー大会
SEINANラグビーマガジンカップ大会

第3回関西ミニ女子交流大会 ラグビースクール指導者講習会
各地区ブロック交流大会（東海・北陸・四国）

（タグ部門）

部門会議（兼ブロック長会議） 第12回四国カップ
タグラグビー交流大会DREAMカップin石川

第22回SMBCカップ全国小学生タグラグビー大会府県予選大会

第12回関西小学生タグラグビーCSクリスマス大会

第22回SMBCカップ全国小学生タグラグビー大会ブロック予選大会

第12回北陸タグラグビーフェスタ勸進帳カップ

第2回NAOYA CUP中学生タグラグビー交流大会

7.U15普及育成委員会

（中学・スクール部門）

太陽生命カップ関西ブロック予選（スクール部門）

第46回関西中学生大会 第27回関西中学生数河ジャンボリー

第31回全国ジュニア大会 近畿ブロック予選

第17回関西スクールジュニア新人交流大会（スクール部門）

（女子中学生部門）

太陽生命カップ第13回関西地区予選・春季大会

第31回全国ジュニア関西地区予選・秋季大会

8.安全対策委員会

三支部合同オンライン安全対策伝達会、重傷事故分析会

22府県安全対策委員長会議、安全対策常任委員会

9.社会人委員会

第1回トップウェストリーグ

委員会・総会、公式戦・入替戦・参入チャレンジマッチ
全国社会人トーナメント大会

10.クラブ委員会

四国ブロック全国クラブ大会予選、中国ブロック全国クラブ大会予選
関西クラブ大会、東海社会人クラブリーグ、近畿クラブリーグ
関西学生クラブ選手権、全国クラブ大会中国四国ブロック代表決定戦
北陸クラブ選手権、全国クラブ大会関西第3代表決定戦
学生クラブ東西対抗試合、

11.大学委員会

関西大学春季トーナメント、関西大学リーグ委員会（計2回）
関西大学リーグ総会、レフリーカンファレンス
関西協会プレスカンファレンス、関西大学リーグ
関西大学リーグベスト15表彰式

12.高専委員会

第56回全国高専大会

13.高校委員会

高校委員会（計2回）、関西少人数校大会

14.女子委員会

関西セブンズフェスティバル 女子の部
関西女子ラグビーCORE & UP!合同練習会
第28回女子関西大会
関西ウィメンズラグビーフェスティバル

サニックスワールドラグビーユース交流大会
女子セブンズ関西予選会

15.広報委員会

（広報部門）各種大会のマッチレポート作成及び記者会見対応
関西セブンズ大会、大学春季トーナメント、大学Aリーグ・入替戦、トッ
プウェスト（主要な試合）、大学選手権東海北陸・中国四国代表決定戦、関
西女子大会、関西大学Aリーグのプレスカンファレンス開催
（マーケティング部門）
オフィシャルトップパートナー、サポートカンパニー各協賛企業訪問、
協賛各社との交流会開催（大学Aリーグ開幕節・最終節）
（プロモーション部門）
関西大学Aリーグのポスターデザイン公募、機関誌三支部だよりへの原
稿作成（4回）
（その他）
関西協会ロゴ使用許諾申請書、ガイドライン、利用規定の作成、広報委
員会開催（2回）

16.ツアー委員会

特になし

17.100周年記念事業委員会

関西協会100周年記念 関西セブンズフェスティバル
関西協会100周年記念 第18回関西ミニジャンボリー大会
関西協会100周年記念 大学東西対抗戦
関西協会100周年記念パーティー
関西協会100周年記念誌作成

九州ラグビーフットボール協会

1.レフリー委員会

- (1)レフリー委員長会議（3回）
- (2)レフリー研修会 九州地区トップレフリー研修会、九州地区レフリー研修会、九州地区B級レフリー認定講習会、三地域協会トップレフリー研修会
- (3)各県巡回指導研修会（8回）
- (4)レフリー研修会講師派遣（7回）
- (5)レフリー派遣
- (6)レフリー・コーチ及び評価
- (7)コーチ・アセッサー研修会（6月21日～22日）
- (8)レフリー評価委員会（11月6日、3月20日）
- (9)九州アカデミー研修
- (10)女子レフリー研修会（2月7日～8日）
- (11)ミニラクビーレフリー研修会（8月30日～31日）

2.社会人委員会

- (1)第63回九州セブンズ（元杯全九州7人制大会、4月19日～20日）
- (2)第45回国民スポーツ大会九州ブロック大会（成年、8月29日～31日）
- (3)トップキュウシュウリーグ主務会議（9月20日）
- (4)トップキュウシュウリーグ（9月27日～10月26日）
- (5)トップキュウシュウリーグ順位決定トーナメント（11月8日～24日）
- (6)全国社会人トーナメント大会（12月6日、21日）

3.クラブ委員会

- (1)各県クラブ委員長会議（3回）、総務委員会（3回）

- (2)第44回九州惑ラグビー交流大会（5月24日～25日）
- (3)第21回九州トップクラブリーグ（9月28日～12月14日）
- (4)第1回九州社会人クラブ大会（11月2日、9日、29日～30日）
- (5)九州トップクラブ入替戦（1部・2部入替戦）
- (6)第33回全国クラブ大会

4.大学委員会

- (1)会議及び講習会
大学委員長会議、コンプライアンス研修会、チーム代表者会議
- (2)九州学生ラグビーリーグ（9月6日～11月30日）
- (3)第62回全国大学選手権（11月29日、12月14日）
- (4)九州山口医科学系大学安全講習会（3月1日）

5.高専委員会

- (1)第34回九州高専新人大会（5月11日～18日）
- (2)九州高専委員長会議（11月15日～16日）
- (3)第62回九州地区高専大会（11月15日～18日）
- (4)第38回九州高専チームリーダー講習（3月23日～24日）

6.高校委員会

- (1)サニックスワールドユース交流大会（4月28日～5月5日）
- (2)第15回全国高校女子合同大会 九州代表選考会（6月1日）
- (3)第78回全九州高校大会（九州高体連主催、6月20日～24日）
- (4)九州高体連ラグビー専門部委員長会議（6月21日）
- (5)九州高校強化委員会（6月21日）
- (6)U17九州代表選考合宿（7月5日～7日）
- (7)U16九州ブロックトライアウト（7月5日～7日）

- (8)第15回全国高校女子合同大会九州代表強化合宿（7月12日～13日）
- (9)国民スポーツ大会第45回九州ブロック大会（8月29日～31日）
- (10)第7回九州高校U18女子セブンズ大会（9月13日～14日）
- (11)第105回全国高校選手権大会 各県予選（10月～11月）
- (12)第17回九州U16・U17交流会（12月6日～7日）
- (13)サニックスワールドユース交流大会2026予選会（1月1日～5日）
- (14)第48回全九州高校新人大会（2月20日～25日）
- (15)第13回九州高校選抜女子セブンズ大会（2月21日～22日）
- (16)九州高校委員会及び強化委員会（2月21日佐賀）
- (17)2026TIDユースキャンプ西日本トレセン（3月6日～8日）
- (18)次年度U17九州代表候補合宿（3月7日～9日）
- (19)第27回九州高校10人制大会（3月20日～22日）

7.コーチ委員会

- (1)全国コーチ委員長会議（5月9日、11月21日）
- (2)JRFUコーチカンファレンス兼コーチブラッシュアップ研修会
- (3)S級コーチ養成講習会（6月15日）
- (4)A級コーチ養成講習会トップアスリート会場（7月23日～27日）
- (5)B級コーチ養成講習会女性限定（12月11日～14日）
- (6)C級コーチ養成講習会（8月16日、2月1日、7日、8日）
- (7)スタートコーチ養成講習会
- (8)コーチ資格者対象スキルアップ研修会（3月28日）

8.中学委員会

- (1)第1回各県委員長会議（4月5日）
- (2)第38回新島旗九州中学校ラグビー大会（7月30日～8月1日）
- (3)第8回九州女子中学生ラグビー大会（8月2日）

- (4)第2回各県委員長会議（8月2日鯛生）
- (5)第47回新島杯九州ジュニアラグビー大会（8月1日～3日）
- (6)第26回ジュニアラグビー九州ブロック大会（10月11日～13日）
- (7)第3回各県委員長会議（10月12日）
- (8)ジュニアラグビーインストラクター研修（10月11日～13日）
- (9)第27回九州ジュニアラグビー鹿児島ジャンボリー（11月29日～30日）
- (10)第27回九州ジュニアラグビー福岡ジャンボリー（1月24日～25日）
- (11)第1回九州ジュニアラグビー沖縄ジャンボリー（3月14日～15日）
- (12)ジュニアラグビー指導者講習会

9.普及委員会

- (1)会議・研修会 普及育成委員会総会、タグラグビー部門長会議、ラグビースクールプロモーション、タグラグビーエデュケーター講習会、九州MRR認定講習会
- (2)ミニラグビー
 - 第26回西九州ブロックミニラグビー交流大会（6月15日）
 - 第52回九州ミニラグビー少年交歓会（8月29日～31日）
 - 第26回東九州ブロックミニラグビー交流大会（9月15日）
 - 第14回トライドリームカップ（11月21日～23日）
 - 第26回南九州ブロックミニラグビー交流大会（12月14日）
 - 第5回九州女子ミニラグビー交流会（2月7日）
 - 第18回沖縄県ブロックミニラグビー交流大会（2月22日）
- (3)タグラグビー
 - 九州タグフェスタ（9月21日）
 - 第22回全国小学生タグラグビー大会九州ブロック予選大会（1月18日）
 - 第20回九州女子タグラグビー大会（2月7日～8日）

10.安全対策委員会

- (1)安全推進講習会、インテグリティ推進講習会（4月～6月）
- (2)セーフティーアシスタント認定講習会（4月～7月）
- (3)安全推進・インテグリティ推進伝達講習会（1月）
- (4)九州協会スケジュール会議において研修会（2月23日）
- (5)九州メディカル・安全対策委員会合同総会（3月7日）

11.強化委員会

- (1)第63回九州セブンズ（木元杯全九州7人制）大会（4月19日～20日）

12.広報委員会

- (1)九州協会公式ホームページ、SNSなどでの情報発信
- (2)各県広報委員長会議（1月）
- (3)報道機関への大会など開催告知及び結果配信
- (4)機関誌などへの情報提供（写真提供など）
- (5)メディア訪問 日本代表戦PR及び取材依頼（6月）

13.メディカル委員会

- (1)公式戦マッチドクター派遣
- (2)メディカル総務委員会（9月7日）
- (3)メディカル委員会・安全対策委員会合同総会（3月7日）
- (4)日本代表チーム帯同医師派遣への協力・合宿時メディカルサポート
- (5)リーグワン・メディカルコントロール
- (6)PHICIS資格講習会（前期・後期）
- (7)マッチデイドクター講習会 担架搬送訓練（7回）
- (8)医科系大学安全対策実技講習会（3月1日）

14.女子委員会

- (1)サニックスワールドユース女子セブンズ大会（4月28日～29日）
- (2)南部九州女子交流大会（5月11日）
- (3)北部九州女子交流大会（5月11日）
- (4)第45回国民スポーツ大会九州ブロック大会（8月29日～31日）
- (5)第3回九州女子ラグビー選手権（12月14日）
- (6)女子委員長会議（12月18日）
- (7)第15回九州ガールズフェスタ（12月6日～7日）
- (8)ナナイロカップ九州ウィメンズセブンズ（3月20日～21日）
- (9)サニックスガールズセブンズキャンプ（3月7日～8日）

15.マーケティング委員会

賛助会員募集強化策の検討・実施

16.登録者傷害見舞金運営委員会

傷害見舞金管理、傷害報告受付管理、傷害見舞審査会開催

以上